



Catalyst 3560-CX および 2960-CX スイッチ ハードウェア 設置ガイド

初版：2015年02月05日

最終更新：2015年06月24日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きや設置場所を変える。
- 機器と受信装置の距離を広げる。
- 受信装置が接続されている回路とは別の回路のコンセントに機器を接続する。
- 販売店またはラジオやテレビの専門技術者に問い合わせる。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記供給者は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、あるいは、取り扱い、使用、または取引慣行によって発生するあらゆる保証に関して、明示的、黙示的を問わず責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)



目次

はじめに vii

表記法 vii

関連資料 ix

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート ix

製品概要 1

スイッチ モデル 2

前面パネル 3

PoE および PoE+ ポート 5

10/100/1000 ポート 5

マルチギガビット ポート 6

管理ポート 6

SFP および SFP+ モジュール スロット 7

LED 7

システム LED 8

ポート LED のモード 9

PoE LED 9

コンソール LED 9

ポート LED 10

背面パネル 11

内蔵電源装置 12

セキュリティ スロット 13

予備電源アダプタ 13

管理オプション 14

ネットワーク構成 15

スイッチの設置 17

警告 17

梱包内容	19
工具および機器	20
インストールのガイドライン	20
スイッチ動作の確認	21
スイッチの設置	22
机または棚の上（取り付けネジなし）	22
机、棚または壁面（取り付けネジ使用）	23
机または棚への設置	23
机または棚の下への設置	24
壁面への設置	26
取り付けトレイの使用	28
取り付けトレイとネジ	29
取り付けトレイとマグネット	31
ラック内	33
DIN レールへの取り付け	35
スイッチへの DIN 取り付けトレイの取り付け	36
DIN レールへのスイッチの取り付け	37
DIN レールからのスイッチの取り外し	39
スイッチへのアダプタ ブラケットの取り付け（任意）	40
電源コード保持具の設置（任意）	41
ケーブル ガードの取り付け（任意）	44
SFP および SFP+ モジュールの取り付け	48
SFP または SFP+ モジュールの取り付け	48
SFP または SFP+ モジュールの取り外し	49
10/100/1000 PoE+ ポートの接続	50
10/100/1000 ポートの接続	51
Auto-MDIX 接続	51
次の作業	52
トラブルシューティング	53
問題の診断	53
スイッチの POST 結果	53
スイッチ LED	53

スイッチの接続状態	54
不良または破損したケーブル	54
イーサネット ケーブルと光ファイバケーブル	54
Link Status	54
10/100/1000 ポートの接続	55
10/100/1000 PoE+ ポートの接続	55
SFP および SFP+ モジュール	56
インターフェイスの設定	56
エンドデバイスへの ping	56
スパニングツリーのループ	56
スイッチのパフォーマンス	57
速度、デュプレックス、および自動ネゴシエーション	57
自動ネゴシエーションと NIC	57
ケーブル接続の距離	57
スイッチのリセット	58
スイッチのシリアル番号の確認	58
技術仕様	59
環境仕様	60
物理仕様	61
電力要件	62
PoE 電力消費	63
コネクタおよびケーブルの仕様	65
コネクタの仕様	65
10/100/1000 ポート (PoE を含む)	65
SFP モジュールのコネクタ	66
ケーブルおよびアダプタ	67
SFP モジュール ケーブル	67
ケーブルのピン割り当て	68
コンソール ポート アダプタのピン割り当て	69
CLI ベースのセットアップ プログラムによるスイッチの設定	71
Express Setup 経由での CLI のアクセス	71
コンソール ポート経由での CLI のアクセス	72

RJ-45 コンソール ポートの接続	72
USB コンソール ポートの接続	73
Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール	75
Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール	76
Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール	77
Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのインストール	78
Cisco Microsoft Windows USB ドライバのアンインストール	78
Cisco Microsoft Windows XP および 2000 USB ドライバのアンインストール	78
Setup.exe プログラムの使用	79
Add or Remove Programs ユーティリティの使用	79
Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのアンインストール	80
初期設定情報の入力	81
IP 設定	81
セットアッププログラムの完了	81



はじめに

- [表記法, vii ページ](#)
- [関連資料, ix ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, ix ページ](#)

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
^ または Ctrl	^ 記号と Ctrl は両方ともキーボードの Control (Ctrl) キーを表します。たとえば、 ^D または Ctrl+D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します（ここではキーを大文字で表記していますが、小文字で入力してもかまいません）。
太字	コマンド、キーワード、およびユーザが入力するテキストは 太字 で記載されます。
<i>Italic</i> フォント	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
太字の courier フォント	太字の courier フォントは、ユーザが入力しなければならないテキストを示します。
[x]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
...	構文要素の後の省略記号（3つの連続する太字ではないピリオドでスペースを含まない）は、その要素を繰り返すことができることを示します。

表記法	説明
	パイプと呼ばれる縦棒は、一連のキーワードまたは引数の選択肢であることを示します。
[x y]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてstringとみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

読者への警告の表記法

このマニュアルでは、読者への警告に次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



警告

安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。ステートメント 1071

これらの注意事項を保管しておいてください。

関連資料



(注)

スイッチをインストールまたはアップグレードする前に、リリース ノートを参照してください。

- 次の URL にある Catalyst 3560-CX および Catalyst 2960-CX スイッチ ドキュメント。
 - <http://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/catalyst-3560-cx-series-switches/tsd-products-support-series-home.html>
 - <http://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/catalyst-2960-cx-series-switches/tsd-products-support-series-home.html>
- 次の URL にある Cisco SFP および SFP+ モジュールのマニュアル（互換性マトリクスを含む）：
http://www.cisco.com/en/US/products/hw/modules/ps5455/tsd_products_support_series_home.html
- 次の URL にある Cisco Validated Designs ドキュメント。
<http://www.cisco.com/go/designzone>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語]

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定するこ

ともできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



第 1 章

製品概要

Catalyst 3560-CX および 2960-CX スイッチは、Cisco IP Phone、Cisco Wireless Access Point、ワークステーションなどのデバイス、およびサーバ、ルータ、その他のスイッチなどのネットワークデバイスと接続できるイーサネット スイッチです。

これらのスイッチは、オフィスの作業場、ホテルの部屋、自動販売機、売店、教室などの従来のワイヤリングクローゼット環境外に配置できます。また、空間や電力の制約（電源コンセントの利用）がある配置に適しています。

スイッチの配置例については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- [スイッチ モデル, 2 ページ](#)
- [前面パネル, 3 ページ](#)
- [背面パネル, 11 ページ](#)
- [管理オプション, 14 ページ](#)
- [ネットワーク構成, 15 ページ](#)

スイッチ モデル

表 1: Catalyst 3560-CX および 2960-CX スイッチ モデルと説明

スイッチ モデル	ソフト ウェア イ メージ	説明
WS-3560CX-8PC-S	IP Base	8 10/100/1000 Power over Ethernet Plus (PoE+) ポート (PoE バジレット 240 W) ; 2 ギガビット イーサネット および 2 Small Form-Factor Pluggable (SFP) ¹ モジュール アップリンク スロット。
WS-3560CX-8TC-S	IP Base	8 10/100/1000 イーサネット ポート; 2 ギガビット イーサネット および 2 Small Form-Factor Pluggable (SFP) アップリンク モジュール スロット。
WS-3560CX-12PC-S	IP Base	12 10/100/1000 PoE+ ポート (PoE バジレット 240 W) ; 2 ギガビット イーサネット および 2 SFP アップリンク モジュール スロット。
WS-3560CX-12TC-S	IP Base	12 10/100/1000 イーサネット ポート; 2 ギガビット イーサネット および 2 SFP アップリンク モジュール スロット。
WS-3560CX-12PD-S	IP Base	12 10/100/1000 PoE+ ポート (PoE バジレット 240 W) ; 2 ギガビット イーサネット および 2 SFP+ ² モジュール アップリンク スロット。
WS-3560CX-8PT-S	IP Base	8 10/100/1000 PoE+ ポート (PoE バジレット 146 W) ; 2 ギガビット イーサネット アップリンク ポート。
WS-3560CX-8XPD-S	IP Base	2 マルチギガビット ³ 100/1000/2500/5000/10000 PoE+ ポート; 6 10/100/1000 PoE+ ポート (PoE バジレット 240 W) ; 2 SFP+ モジュール アップリンク スロット。
WS-C3560CPX-8PT-S	IP Base	8 ギガビット イーサネット PoE+ ポート; 2 SFP モジュール アップリンク スロット。
WS-C3560CX-8PD-S	IP Base	6 ギガビット イーサネット ポート; 2 マルチギガビット イーサネット PoE+ ポート; 2 SFP+ アップリンク スロット。
WS-2960CX-8PC-L	LAN ベー ス	8 10/100/1000 PoE+ ポート (PoE バジレット 124 W) ; 2 ギガビット イーサネット および 2 SFP アップリンク モジュール スロット。

スイッチ モデル	ソフトウェア イメージ	説明
WS-2960CX-8TC-L	LAN ベース	8 10/100/1000 イーサネット ポート; 2 ギガビット イーサネット および 2 SFP アップリンク モジュール スロット。

¹ SFP = ギガビット アップリンク。

² SFP+ = 10 ギガビット アップリンク。

³ マルチギガビット ポートがサポートする速度は、カテゴリ 5e ケーブルでは 100 Mbps、1 Gbps、2.5 Gbps、および 5 Gbps、カテゴリ 6a ケーブル接続では最大 10 Gbps です。



(注) IP Base スイッチは RTU (使用権) ソフトウェア ライセンスを使用して IP Services にアップグレードできます。

前面パネル

- 次のいずれかのタイプのダウンリンク イーサネット ポート X 8 または X 12
 - 10/100/1000
 - 10/100/1000 PoE+

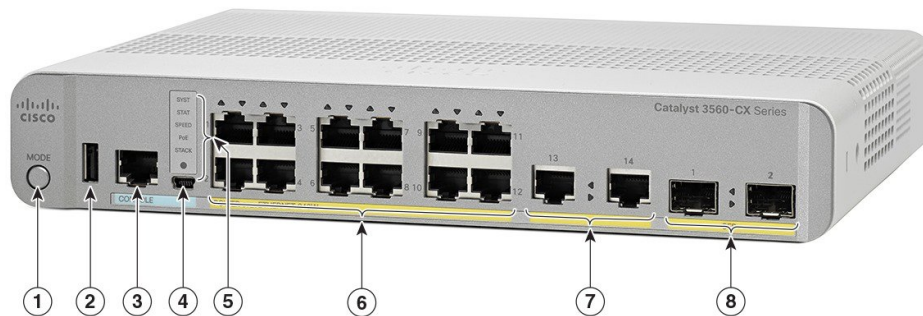


(注) Catalyst 3560CX-8XPD-S には、6 つの PoE+ ポートと 2 つのマルチギガビット PoE+ ポートが搭載されています。

- スイッチ モデルによっては、10/100/1000 アップリンク ポートが 2 つ、および SFP または SFP+ モジュール ポートが 2 つあります。
- RJ-45 コンソール ポート
- USB ミニタイプ B (コンソール) ポート
- USB タイプ A ポート

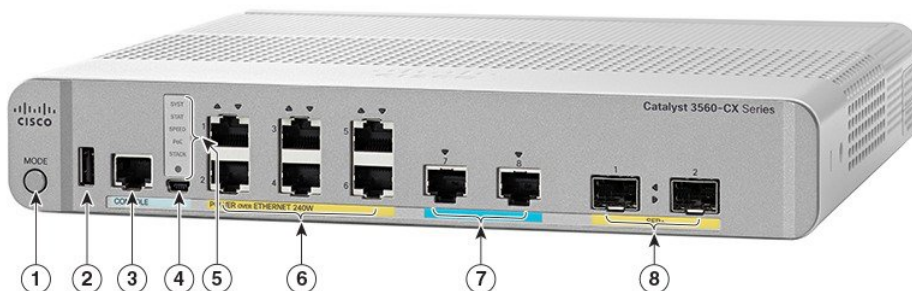
- LED

図 1: Catalyst 3560CX スイッチの前面パネルの図



1	Mode ボタン	5	システム LED
2	USB タイプ A ポート	6	10/100/1000 PoE+ ポート
3	RJ-45 コンソール ポート	7	10/100/1000 アップリンク ポート
4	USB ミニタイプ B (コンソール) ポート	8	SFP モジュール スロット

図 2: Catalyst 3560CX-8XPD-S スイッチの前面パネルの図



1	Mode ボタン	5	システム LED
2	USB タイプ A ポート	6	10/100/1000 PoE+ ポート
3	RJ-45 コンソール ポート	7	マルチギガビット PoE+ ポート

4	USB ミニタイプ B (コンソール) ポート	8	SFP モジュール スロット
---	-------------------------	---	----------------

PoE および PoE+ ポート

各ポートは、IEEE 802.3af、IEEE 802.3at、および ePoE に準拠した装置をサポートする PoE+ 機能を備えており、Cisco IP Phone や Cisco Aironet アクセス ポイントをサポートするシスコ独自規格の PoE 機能も備えています。

スイッチの最大出力電力は、スイッチのモードによって 124 W または 240 W のどちらかになります。インテリジェントな電源管理により、すべてのポートで柔軟な電力の割り当てが可能です。

供給電力が 124 W のスイッチでは、次の PoE および PoE+ を給電できます。

- 8 のポートで 15.4 W の PoE 出力
- 4 ポートで 30 W の PoE+ 出力

供給電力が 240 W のスイッチでは、次の PoE および PoE+ を給電できます。

- 12 のポートで 15.4 W の PoE 出力
- 8 ポートで 30 W PoE+ 出力

IP フォンまたはアクセス ポイントを接続するときに、自動的に電力を供給するかどうかをポート単位で制御することができます。

PoE ポートでは、イーサネット ピン割り当ての RJ-45 コネクタを使用します。最大ケーブル長は 328 フィート (100 m) です。10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T のトラフィックでは、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、またはカテゴリ 6 のシールドなしツイストペア (UTP) ケーブルが必要です。10BASE-T トラフィックには、カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 の UTP ケーブルを使用できます。

シスコのインテリジェント電源管理機能には、高度な電力ネゴシエーション、電力確保、およびポート単位の電力ポリシングが含まれます。PoE ポートの設定とモニタリングについては、Cisco.com でスイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。



(注) PoE 回路の出力は、IEC 60950-1 の有限電源 (LPS) として評価されています。

10/100/1000 ポート

10/100/1000 ポートでは、イーサネット ピン割り当ての RJ-45 コネクタを使用します。最大ケーブル長は 328 フィート (100 m) です。100BASE-TX トラフィックでは、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、またはカテゴリ 6 のシールドなしツイストペア (UTP) ケーブルが必要です。10BASE-T トラフィックには、カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 の UTP ケーブルを使用できます。

マルチギガビットポート

マルチギガビットポートは、スイッチポートで複数の速度を自動ネゴシエートするように設定できます。サポートされる速度は、カテゴリ 5e ケーブルでは 100 Mbps、1 Gbps、2.5 Gbps、および 5 Gbps、カテゴリ 6 およびカテゴリ 6a ケーブルでは最大 10 Gbps です。

マルチギガビットポートはサポートされるすべての速度およびケーブルタイプで PoE および PoE+ をサポートします。次の表に、ケーブルタイプと速度を示します。

ケーブルタイプ	100Mbps	1G	2.5G	5G	10G
カテゴリ 5e	はい	はい	はい	はい	該当なし
カテゴリ 6	はい	はい	はい	はい	はい (55 メートル)
カテゴリ 6a	はい	はい	はい	はい	はい

管理ポート

管理ポートは、Microsoft Windows を実行している PC またはターミナルサーバにスイッチを接続します。

- RJ-45 コンソールポート (EIA/TIA-232)。RJ-45 コンソールポートの接続には、RJ-45/DB-9 メスケーブルを使用します。
- USB ミニタイプ B コンソールポート (5 ピンコネクタ)。

USB ミニタイプ B ポートを使用する場合は、(Microsoft Windows での動作のため) コンソールに接続されたすべての PC に Cisco Windows USB デバイスドライバをインストールする必要があります。Mac OS X と Linux には、特別なドライバは必要ありません。

4 ピンミニタイプ B コネクタは 5 ピンミニタイプ B コネクタと似ていますが、これらに互換性はありません。5 ピンミニタイプ B 以外は使用しないでください。

次の図は、5 ピンミニタイプ B USB ポートを示しています。

図 3: USB Mini タイプ B ポート



Cisco Windows USB デバイスドライバでは、Windows の HyperTerminal の動作に影響を与えることなく、USB ケーブルをコンソールポートに接続または接続解除することができます。

コンソール出力は、常に RJ-45 および USB コンソール コネクタの両方に送られますが、コンソール入力は、一方のコンソール コネクタだけがアクティブになります。USB コンソールは、RJ-45 コンソールよりも優先されます。ケーブルが USB コンソール ポートに接続されているときは、RJ-45 コンソールポートが非アクティブになります。逆に、USB ケーブルを USB コンソールポートから取り外すと、RJ-45 ポートがアクティブになります。

コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、非アクティブ タイムアウトを設定できません。これを設定すると、USB コンソールがアクティブになっている場合、指定された時間内に USB コンソールで入力アクティビティが発生しないと、RJ-45 コンソールが再度アクティブ化されます。

非アクティブが原因で USB コンソールが非アクティブ化された後は、CLI を使用して再アクティブ化できません。USB コンソールを再アクティブ化するには、USB ケーブルを取り外して再接続してください。CLI を使用して USB コンソール インターフェイスを設定する方法については、ソフトウェア ガイドを参照してください。

SFP および SFP+ モジュール スロット

スイッチには、2 つの 1 ギガビット SFP または 10 ギガビット SFP+ モジュール スロットがあります。SFP+ とマークされたスロットでは、SFP モジュールと SFP+ モジュールの両方がサポートされます。SFP スロットでは SFP モジュールだけがサポートされます。

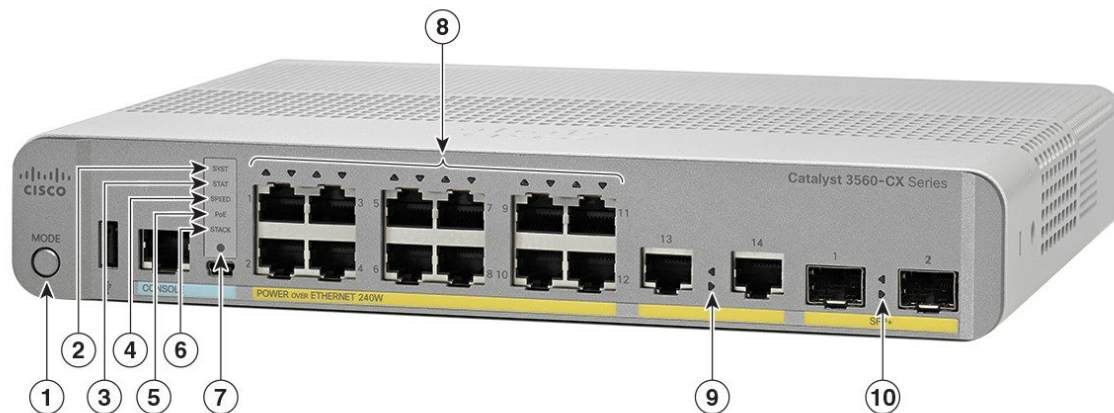
互換性マトリクスを含む、Cisco SFP および SFP+ モジュールのマニュアルについては、次の URL を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/hw/modules/ps5455/products_device_support_tables_list.html

LED

スイッチシステムおよびポートの LED を使用して、スイッチの動作やパフォーマンスをモニタできます。

次の図に、スイッチの LED と、ポートのモードの選択に使用する MODE ボタンを示します。

図 4: スイッチの LED と MODE ボタン



1	Mode ボタン	6	STACK LED ⁴
2	SYST LED (システム)	7	コンソール LED
3	STAT LED (ステータス)	8	ポート LED
4	SPEED LED	9	アップリンク ポート LED (銅線)
5	PoE LED ⁵	10	アップリンク ポート LED (SFP/SFP+)

⁴ スタック機能があるスイッチ モデルの場合のみ。このリリースはスイッチ スタックキングをサポートしていないことにご注意ください。

⁵ PoE をサポートするスイッチ モデルのみ。

システム LED

色	システム ステータス
消灯	システムの電源が入っていません。
グリーン	システムは正常に動作しています。
オレンジ	システムは電力を受けていますが、正常に動作していません。

ポート LED のモード

ポート LED は、グループ別または個別に、スイッチとそれぞれのポートに関する情報を表示します。

LED	ポート モード	説明
STAT	ポート ステータス	ポートのステータスを示します。これは、デフォルトのモードです。
SPEED	ポート速度	ポートの動作速度（10、100、または1000 Mb/s）。
PoE	PoE ポートの電力	PoE のステータスを示します。

PoE LED

PoE モードが選択されていない場合でも、LED は、検出された PoE 障害を示します。PoE LED は、PoE をサポートするスイッチにのみ搭載されています。

色	説明
消灯	PoE がディセーブルです。
グリーン	PoE がイネーブルです。ポートは適切に動作しています。
オレンジに点滅	<ul style="list-style-type: none"> • PoE モードが選択されていません。 • 少なくとも 1 つの 10/100 または 10/100/100 PoE ポートに電力が供給されていません。 • 少なくとも 1 つのポートに PoE 障害があります。

コンソール LED

コンソール LED はコンソール ポートが使用中であることを示します。

ケーブルをコンソール ポートに接続している場合は、自動的に、そのポートがコンソール通信に使用されます。2本のコンソールケーブルを接続すると、USB-mini コンソールポートが優先されます。

LED	色	説明
RJ-45 コンソール ポート	グリーン	RJ-45 コンソールポートがアクティブです。 USB-mini コンソールポート LED は非アクティブです。
	消灯	ポートが非アクティブです。 USB-mini コンソールポートはアクティブです。
USB-mini コンソール ポート	グリーン	USB-mini コンソールポートはアクティブです。 RJ-45 コンソールポート LED は非アクティブです。
	消灯	ポートが非アクティブです。 RJ-45 コンソールポートがアクティブです。

ポート LED

RJ-45 ポートおよび SFP モジュール スロットにはポート LED が装備されています。これらの LED はグループとして、または個別に、スイッチ情報および個々のポート情報を示します。

LED カラー	説明
消灯	リンクが確立されていないか、ポートが管理上の理由でシャットダウンされました。
グリーン	リンクは存在しますが、データは送受信されていません。
緑色に点滅	アクティブな状態です。ポートがデータを送信または受信しています。
グリーンとオレンジに交互に点滅	リンク障害が発生しています。エラーフレームが接続に影響を与える可能性があります。リンク障害について、大量のコリジョン、CRC エラー、アライメント/ジャババー エラーなどのエラーがモニタされています。

LED カラー	説明
オレンジ	ポートがスパニングツリープロトコル (STP) によってブロックされており、データを転送していません。ポートを再設定した後は、STP によってループが検索されるので、最大 30 秒間 LED がオレンジに点灯します。

背面パネル

- セキュリティ スロット
- AC 電源コネクタまたは電源アダプタ コネクタ (Catalyst 3560CX-8PT-S のみ)
- ループ (オプションの電源コード保持具用)

- ヒート シンクのフィン (PoE モデルのみ)

図 5: 非 PoE スイッチの背面パネル

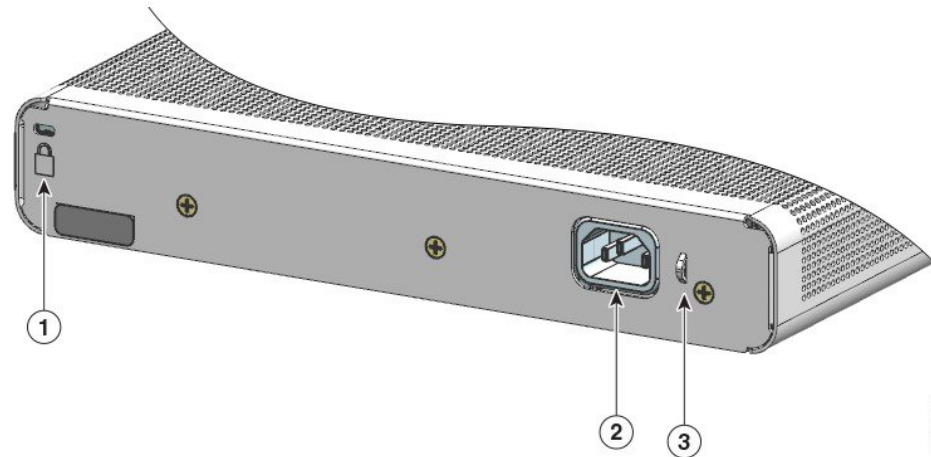
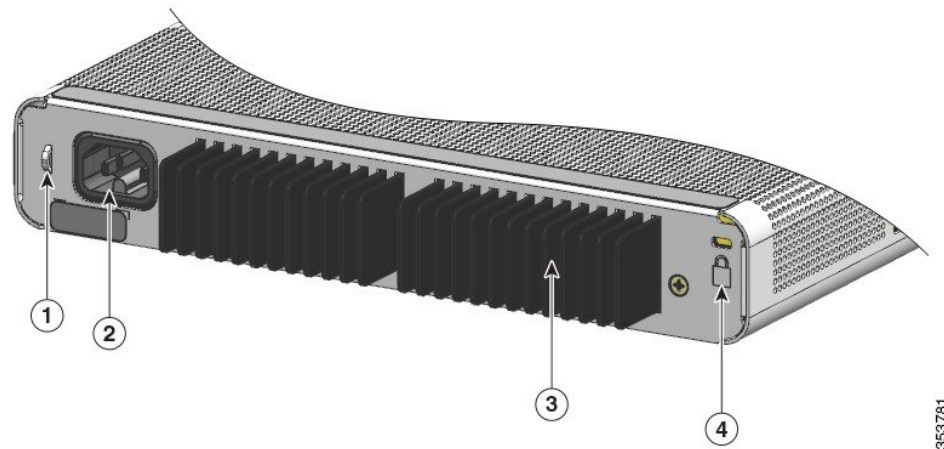


図 6: PoE スイッチの背面パネル



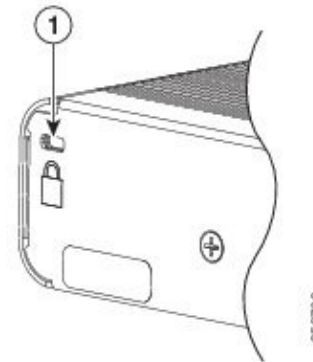
内蔵電源装置

Catalyst 3560CX-8PT-S 以外のすべてのスイッチには、内蔵電源装置から電力が供給されます。内蔵 AC 電源装置は、入力電圧 100 ~ 240 VAC に対応するオートレンジングユニットです。AC 電源コードを AC 電源コネクタと AC 電源コンセントに差し込みます。

セキュリティスロット

スイッチの背面パネルには、セキュリティスロットがあります。オプションのケーブルロック（ラップトップコンピュータを固定するのに使用されるようなタイプ）をスイッチに取り付けて固定することができます。

図7: スwitchの背面パネル



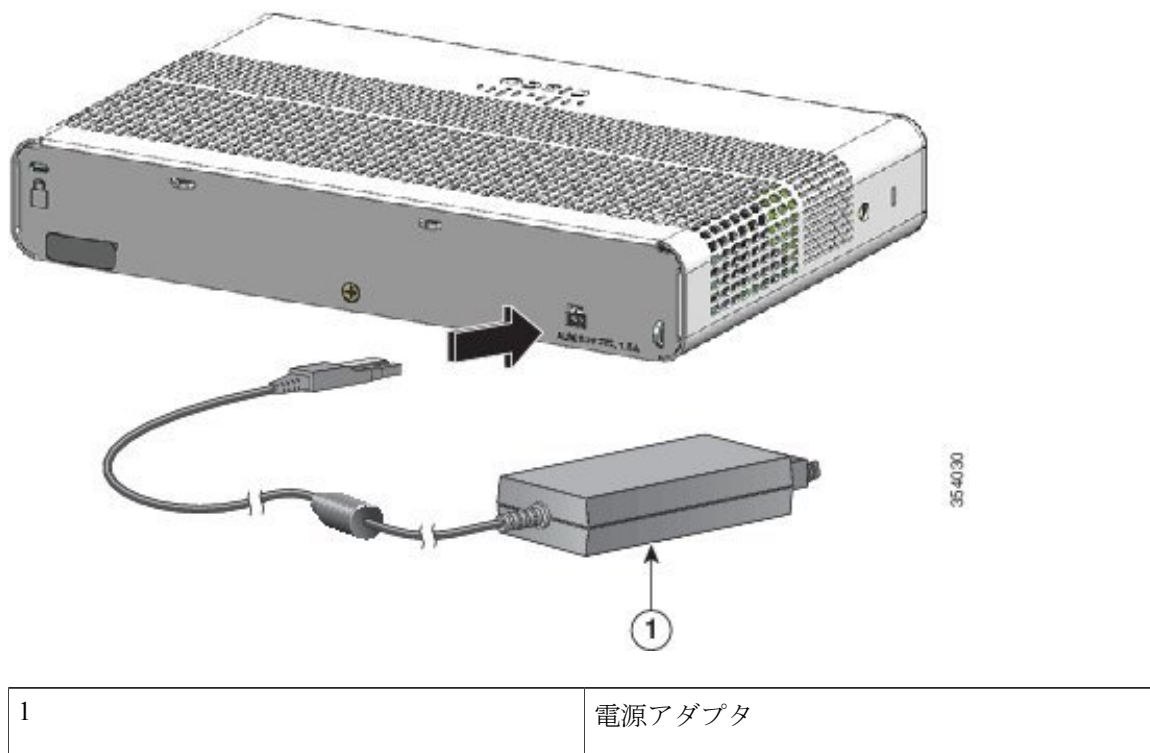
(注) PoE モデルでは、セキュリティスロットは、背面パネルの右側にあります。

予備電源アダプタ

Catalyst 3560CX-8PT-S スイッチへの電力供給は、PoE、PoE+、またはUPOE スイッチから 10/100/1000 アップリンクポート経由で、あるいは AC-DC または DC-DC 予備電源アダプタを使用して行うこ

とができます。AC-DC電源アダプタ（PWR-ADPT）またはDC-DC電源アダプタ（PWR-ADPT-DC）は、スイッチと一緒に発注することも、シスコの担当者にあとで発注することもできます。

図 8：外部予備電源アダプタ経由の接続



管理オプション

- Cisco Network Assistant

Cisco Network Assistant は、中小企業の LAN に適した、PC ベースのネットワーク管理 GUI アプリケーションです。この GUI を使用すると、スイッチクラスターやスタンドアロンスイッチを設定および管理できます。Cisco Network Assistant は、次の URL から無料でダウンロードできます。 <http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/index.html>

Network Assistant アプリケーションの起動については、Cisco.com にある『*Getting Started with Cisco Network Assistant*』を参照してください。

- Device Manager

スイッチメモリ内の Device Manager を使用して、個々のスイッチやスタンドアロンスイッチを管理できます。この Web インターフェイスは、ネットワークの任意の場所から、設定およびモニタ機能を提供します。詳細については、スイッチのスタートアップガイドおよび Device Manager のオンラインヘルプを参照してください。

- Cisco IOS CLI

CLIを使用してスイッチおよびスイッチクラスタメンバを設定し、モニタできます。CLIには、スイッチのコンソールポートに直接管理ステーションを接続するか、リモート管理ステーションから Telnet を使用してアクセスします。詳細については、Cisco.com でスイッチのコマンドリファレンスを参照してください。

- Cisco Prime Infrastructure

Cisco Prime Infrastructure は、Cisco Prime Network Control System (NCS) のワイヤレス機能および Cisco Prime LAN Management Solution (LMS) の有線機能を、Cisco Prime Assurance Manager のアプリケーションパフォーマンス モニタリングおよびトラブルシューティングの機能と組み合わせます。詳細については、Cisco.com で Cisco Prime Infrastructure のドキュメントを参照してください。

- Catalyst の便利な機能

スマートインストール機能により、ネットワーク内に単一の管理ポイント（ディレクタ）を用意できます。この機能を使用すると、新たに設置したスイッチのイメージと設定のアップグレードをゼロタッチで行うことができ、すべてのクライアントスイッチに対してイメージと設定をダウンロードすることもできます。詳細については、Cisco.com で『Cisco Smart Install Configuration Guide』を参照してください。

Auto Smartport マクロは、ポートで検出されたデバイスタイプに基づいてポートを動的に設定します。スイッチは、新しいデバイスを検出すると、そのポートに適切な Auto Smartport マクロを適用します。Auto Smartport の設定の詳細については、Cisco.com にあるスイッチのソフトウェア コンフィギュレーションガイドを参照してください。

ネットワーク構成

ネットワーク構成の概念と、スイッチを使用して専用ネットワークセグメントを作成し、ファストイーサネットおよびギガビットイーサネット接続で相互接続する例については、Cisco.com にあるスイッチのソフトウェア コンフィギュレーションガイドを参照してください。



第 2 章

スイッチの設置

スイッチの初期設定、スイッチのIPアドレスの割り当て、および電源情報については、Cisco.comにあるスイッチのクイック スタート ガイドを参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- [警告, 17 ページ](#)
- [梱包内容, 19 ページ](#)
- [工具および機器, 20 ページ](#)
- [インストールのガイドライン, 20 ページ](#)
- [スイッチ動作の確認, 21 ページ](#)
- [スイッチの設置, 22 ページ](#)
- [スイッチへのアダプタ ブラケットの取り付け \(任意\) , 40 ページ](#)
- [電源コード保持具の設置 \(任意\) , 41 ページ](#)
- [ケーブル ガードの取り付け \(任意\) , 44 ページ](#)
- [SFP および SFP+ モジュールの取り付け, 48 ページ](#)
- [10/100/1000 PoE+ ポートの接続, 50 ページ](#)
- [10/100/1000 ポートの接続, 51 ページ](#)
- [次の作業, 52 ページ](#)

警告

ここでは、設置の基本的な注意事項と警告事項について説明します。インストレーション手順を開始する前に、ここに記載されている内容をお読みください。警告事項の各国語版は、Cisco.comで提供されている RCSI ガイドに記載されています。



警告

電力系統に接続された装置で作業する場合は、事前に、指輪、ネックレス、腕時計などの装身具を外してください。金属は電源やアースに接触すると、過熱して重度のやけどを引き起こしたり、金属類が端子に焼き付いたりすることがあります。ステートメント 43



警告

壁面への設置手順をよく読んでから、設置を開始してください。適切なハードウェアを使用しなかった場合、または、正しい手順に従わなかった場合は、人体に危険が及んだり、システムが破損したりする可能性があります。ステートメント 378



警告

雷が発生しているときには、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行ったりしないでください。ステートメント 1001



警告

設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。
- ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006



警告

クラス 1 レーザー製品です。ステートメント 1008



警告

この装置は、アースさせる必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかはつきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

本製品の最終処分は、各国のすべての法律および規制に従って行ってください。ステートメント 1040



警告

この装置が設置された建物の外部の接続に関しては、集積回路保護が施された、認定されたネットワーク終端装置を通して、10/100/1000 イーサネットポートに接続する必要があります。ステートメント 1044



警告

システムの過熱を防ぐため、周囲温度が推奨範囲の最大値である 113 °F (45 °C) を超える場所ではシステムを使用しないでください。ステートメント 1047



(注)

Catalyst 3560CX-12PD-S および C3560CX-8XPD-S スイッチの最大動作温度は 40 °C、他のすべてのスイッチ モデルは 45 °C です。ただし、WS-C3560CX-8XPD-S を反転させて設置する場合、フルロード条件 (10 G SFP+ トランシーバを設置し、最大 PoE を使用) 下での最大動作温度は 35 °C です。



警告

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device. Statement 1071



警告

スイッチ内部にはユーザが保守できる部品はありません。筐体を開けないでください。ステートメント 1073



警告

装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。ステートメント 1074



警告

通気を妨げないように、通気口の周囲に 3 インチ (7.6 cm) 以上のスペースを確保してください。ステートメント 1076

梱包内容

梱包内容は、スイッチのクイックスタートガイドに記載されています。欠落または破損している製品がある場合には、シスコの担当者か購入された代理店に連絡してください。

工具および機器

次の工具と機器を用意します。

- No. 2 プラス ネジ用ドライバ
- #27 のドリル用ビット (0.144 インチ (3.7 mm)) のドリル

インストールのガイドライン

スイッチの設置場所を決める場合は、次の注意事項が守られていることを確認してください。

- 前面パネルの周囲に、LED が簡単に読み取れるようなスペースがあること。
- 電源コンセントからスイッチのコネクタまで電源コードが届くこと。
- ケーブルがラジオ、電線、蛍光灯などの電気ノイズ源から離れていること。
- 装置周辺の温度が 45 °C (113 °F) を超えないこと。閉じたラックまたはマルチラックにスイッチを設置する場合は、周辺温度が室温より高くなる場合があります。



-
- (注) Catalyst 3560CX-12PD-S および C3560CX-8XPD-S スwitchの最大動作温度は 40 °C です。その他すべてのスイッチの最大動作温度は 45 °C です。ただし、WS-C3560CX-8XPD-S を反転させて設置する場合、フルロード条件 (10G SFP+ トランシーバを設置し、最大 PoE を使用) 下での最大動作温度は 35 °C です。
-



-
- (注) GLC-T SFP モジュールを搭載して上記の製品を使用する場合の温度制限は以下のとおりです。
- 海拔ゼロで許容される温度上限は、机上に設置した状態では 35 °C、反転させて設置した状態では 30 °C です。
 - 高度 5000 フィート (1524 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 30 °C、反転させて設置した状態では 25 °C です。
 - 高度 10000 フィート (3048 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 25 °C、反転させて設置した状態では 20 °C です。
-

- スwitchの周辺湿度が 95% を超えないこと。
- 設置場所の標高が 10,000 フィート (3,049 m) を超えないこと。
- スwitchの周囲や通気口のエアフローが妨げられないようにする必要があります。フローを妨げないために、次のガイドラインを強く推奨します。

- ° スwitchの左右、前面および背面の周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。
- ° スwitchを直立させて設置する場合は、上部カバーの周囲に1.75インチ（4 cm）以上の空間を確保してください。
- ° スwitchを反転させて机の下に設置する場合は、上部カバーの周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。
- ° ラックにスswitchを設置する場合は、各スswitch上に1RU以上の空のラックスペースを確保してください。



(注) 規定の最大温度とフルロード条件（トランシーバを設置し最大 PoE を使用）下で動作する Catalyst 3560CX-12PD-S および C3560CX-8XPD-S スwitchを反転させて設置する場合、（最小限の3インチ（7.6 cm）に限定せず）スswitchの周囲全体に十分なエアフローを確保してください。スswitchを直立させて設置する場合は、上部カバーの周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。ラックに設置する場合、各スswitch上に2RU以上の空のラックスペースが必要です。

- スwitchを平らな水平面に設置する場合は、スswitchにゴム製の脚を付けていること（強く推奨）。
- 10/100/1000 固定ポートの場合、スswitchから接続先装置までのケーブル長は328 フィート（100 m）以内であること。
- SFP モジュール接続のケーブル要件については、[SFP モジュールケーブル](#)、[\(67 ページ\)](#) を参照してください。各ポートはケーブルの反対側の波長仕様と一致させる必要があります。また、ケーブルは最小ケーブル長を超えないものとします。

スイッチ動作の確認

ラック、壁面、卓上、または棚にスswitchを設置する前に、スswitchに電源を投入し、POSTが正常に実行されることを確認します。

スswitchに電源を投入するには、スswitch モデルに応じて次のいずれかを実行してください。

- PoE または PoE+ スwitchに、10/100/1000 アップリンク ポートを接続します。
- 予備電源アダプタ コードをスswitchの AUX 電源コネクタと AC 電源コンセントに差し込みます。



(注) アップリンクポートと予備電源アダプタの両方を使用できます。スイッチは使用可能なすべての電源からの電力を共有します。スイッチに供給可能な合計電力量は、すべての電源から使用可能な電力量から電力損失量を引いた値です。

- AC電源コードの一端をスイッチのAC電源コネクタに接続し、もう一方の端をAC電源コンセントに接続します。

スイッチの電源を入れると、POSTが開始され、スイッチの正常動作を確認するためのテストが実行されます。テスト中にLEDが点滅することがあります。POSTは約1分で終了します。スイッチがPOSTを開始すると、SYST、STAT、およびSPEED LEDはグリーンに点灯します。SYST LEDはグリーンに点滅し、その他のLEDはグリーンに点灯したままです。

スイッチでPOSTが正常に終了すると、SYST LEDがグリーンに点灯したままになります。その他のLEDは、いったん消灯してからスイッチの動作状態を表します。スイッチがPOSTに失敗すると、SYST LEDはオレンジに点灯します。

POSTエラーは通常、修復不能です。スイッチがPOSTに失敗する場合は、シスコテクニカルサポートに連絡してください。

POSTに成功したら、スイッチから電源コードを取り外し、ラック、壁面、卓上、または棚に設置します。

スイッチの設置

机または棚の上（取り付けネジなし）

ステップ1 アクセサリキットに含まれているゴム製の脚が付いている粘着ストリップを用意します。

ステップ2 4つのゴム製の脚を粘着ストリップから剥がし、スイッチ底面のくぼみに取り付けます。これにより、スイッチが机または棚の上で滑るのを防止します。

(注) ゴム製の脚の取り付けを強く推奨します。取り付けることにより、通気が妨げられて過熱するのを防止できます。

ステップ3 スイッチを机または棚に置きます。

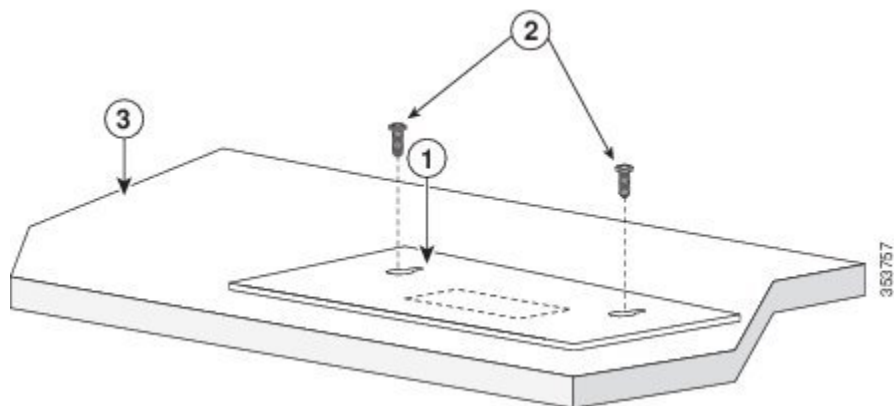
エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6cm）以上の空間を確保してください。
ステートメント 1076

机、棚または壁面（取り付けネジ使用）

机または棚への設置

- ステップ1** ネジ用テンプレートは、取り付けネジ穴の位置を決め、机または棚との間に適切なスペースを確保しながらネジを取り付けるためのガイドとしても使用します。
- ステップ2** CABLE SIDE ENTRY とマークされているエッジが机または棚の前面を向くように、ネジ用テンプレートを机または棚の上に配置します。こうすることにより、スイッチ取り付け後に、電源コードが机または棚の背面に出るようになります。
(注) この時点では、ネジ用テンプレートを机または棚に貼り付けないでください。
- ステップ3** 粘着ストリップをネジ用テンプレートの底面から剥がし、ネジ用テンプレートを机または棚の上に貼り付けます。
- ステップ4** 0.144 インチ (3.7 mm) または #27 のドリルビットを使用し、ネジ用テンプレートの2つのスロットに、1/2 インチ (12.7 mm) の穴を開けます。
- ステップ5** ネジ用テンプレートのスロットにネジを2本挿入して、ネジ頭がネジ用テンプレートの上面に接触するまで締めます。

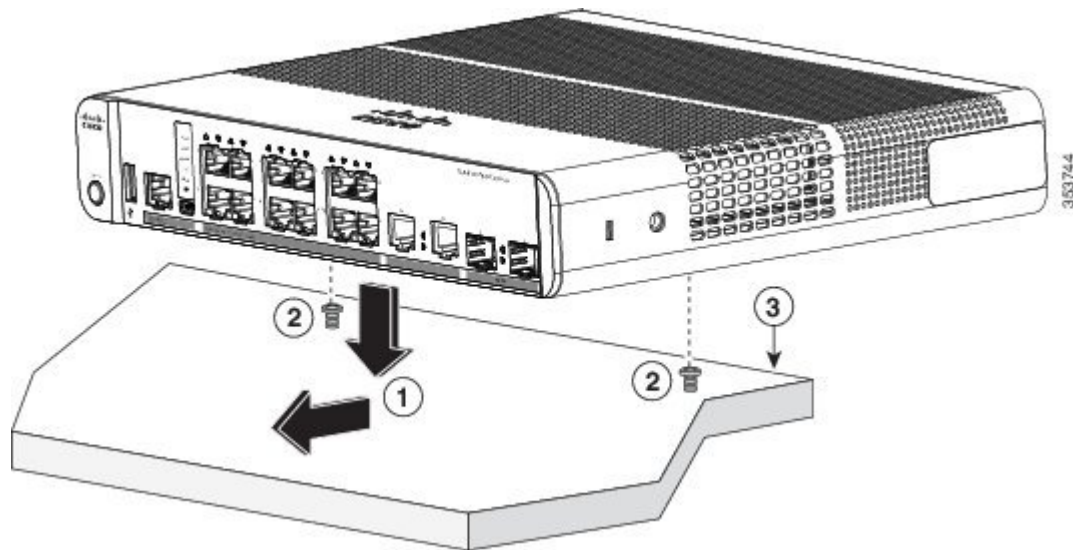
図9: 取り付けネジの机または棚への取り付け



ステップ6 ネジ用テンプレートを机または棚から取り外します。

ステップ7 取り付けネジの上にスイッチを載せ、ロックされるまで前方にスライドさせます。

図 10：スイッチの机または棚への取り付け



エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6cm）以上の空間を確保してください。
ステートメント 1076

机または棚の下への設置

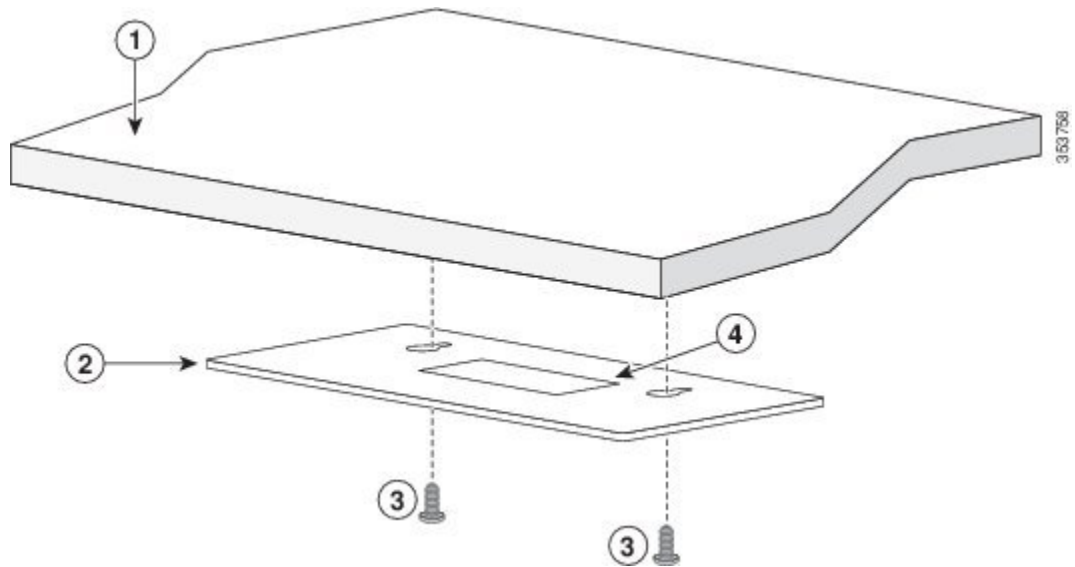
ステップ1 ネジ用テンプレートは、取り付けネジの穴の位置を決め、机または棚の下に適切なスペースを確保しながらネジを取り付けるためのガイドとしても使用します。

ステップ2 CABLE SIDE ENTRY とマークされているエッジが机または棚の前面を向くように、ネジ用テンプレートを机または棚の上に配置します。こうすることにより、スイッチ取り付け後に、電源コードが机または棚の背面に出るようになります。

（注） この時点では、ネジ用テンプレートを机または棚に貼り付けないでください。

- ステップ3** 粘着ストリップをネジ用テンプレートの底面から剥がし、ネジ用テンプレートを机または棚の上に貼り付けます。
- ステップ4** 0.144 インチ (3.7 mm) または #27 のドリルビットを使用し、ネジ用テンプレートの2つのスロットに、1/2 インチ (12.7 mm) の穴を開けます。
- ステップ5** ネジ用テンプレートのスロットにネジを2本挿入して、ネジ頭がネジ用テンプレートの上面に接触するまで締めます。

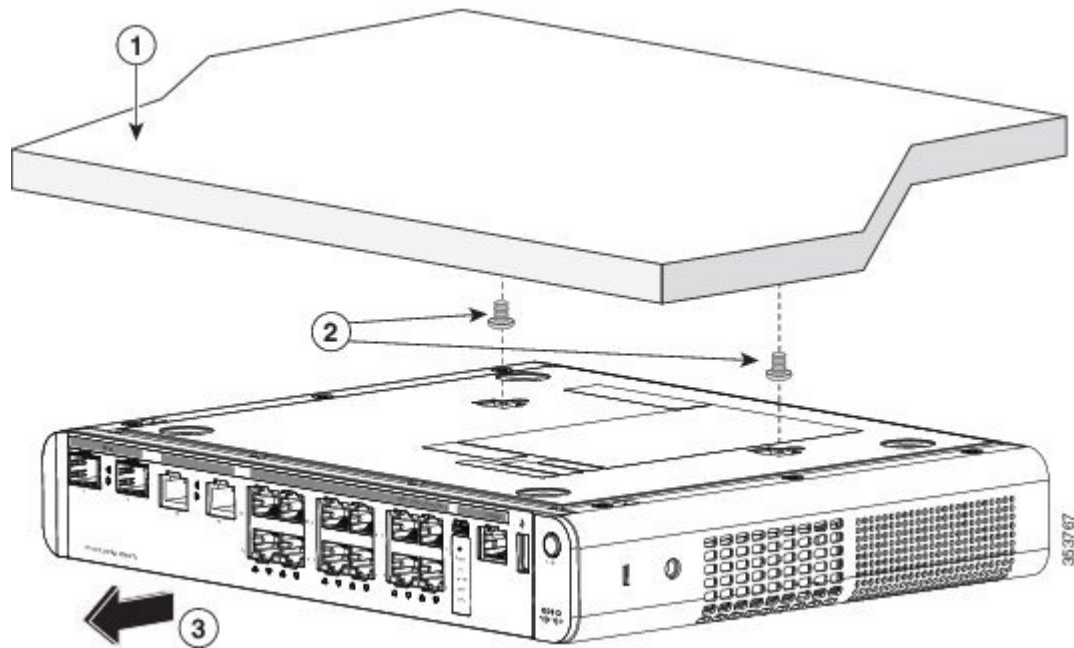
図 11：取り付けネジの机または棚の下への取り付け



- ステップ6** ネジ用テンプレートを机または棚の下から取り外します。
- ステップ7** スイッチを上下逆にして取り付けネジに合わせて、ロックされるまで前方にスライドさせます。

エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6cm）以上の空間を確保してください。
ステートメント 1076

図 12: スwitchの机または棚の下への取り付け



壁面への設置



壁面への設置手順をよく読んでから、設置を開始してください。適切なハードウェアを使用しなかった場合、または、正しい手順に従わなかった場合は、人体に危険が及んだり、システムが破損したりする可能性があります。ステートメント 378

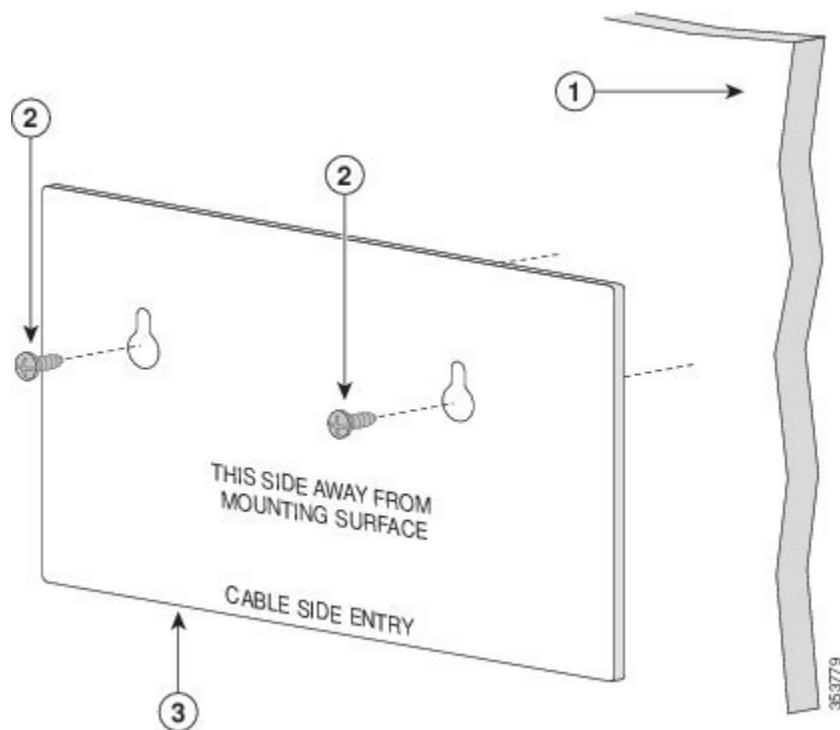


注意

前面パネルを上に向けた状態で、スイッチを壁面に設置しないでください。スイッチを壁面に設置する場合は、エアフローを妨げないようにするため、またケーブルを扱いやすくするため、安全上の規定に従ってスイッチの前面パネルを下または横に向けてください。

- ステップ 1** ネジ用テンプレートを取り出します。このテンプレートは、取り付けネジ穴の位置を決めるために使用します。
- ステップ 2** CABLE SIDE ENTRY とマークされたエッジがフロアに向くように、ネジ用テンプレートを置きます。
 (注) スイッチおよびケーブルを確実に支えるために、スイッチを壁面のスタッド、または固定した合板の背板にしっかりと取り付けてください。
- ステップ 3** ネジ用テンプレートの底面から粘着ストリップを剥がします。
- ステップ 4** ネジ用テンプレートを壁面に貼り付けます。
- ステップ 5** 0.144 インチ (3.7 mm) または #27 のドリルビットを使用し、ネジ用テンプレートの 2 つのスロットに、1/2 インチ (12.7 mm) の穴を開けます。
- ステップ 6** ネジ用テンプレートのスロットにネジを 2 本挿入して、ネジ頭がネジ用テンプレートの上面に接触するまで締めます。

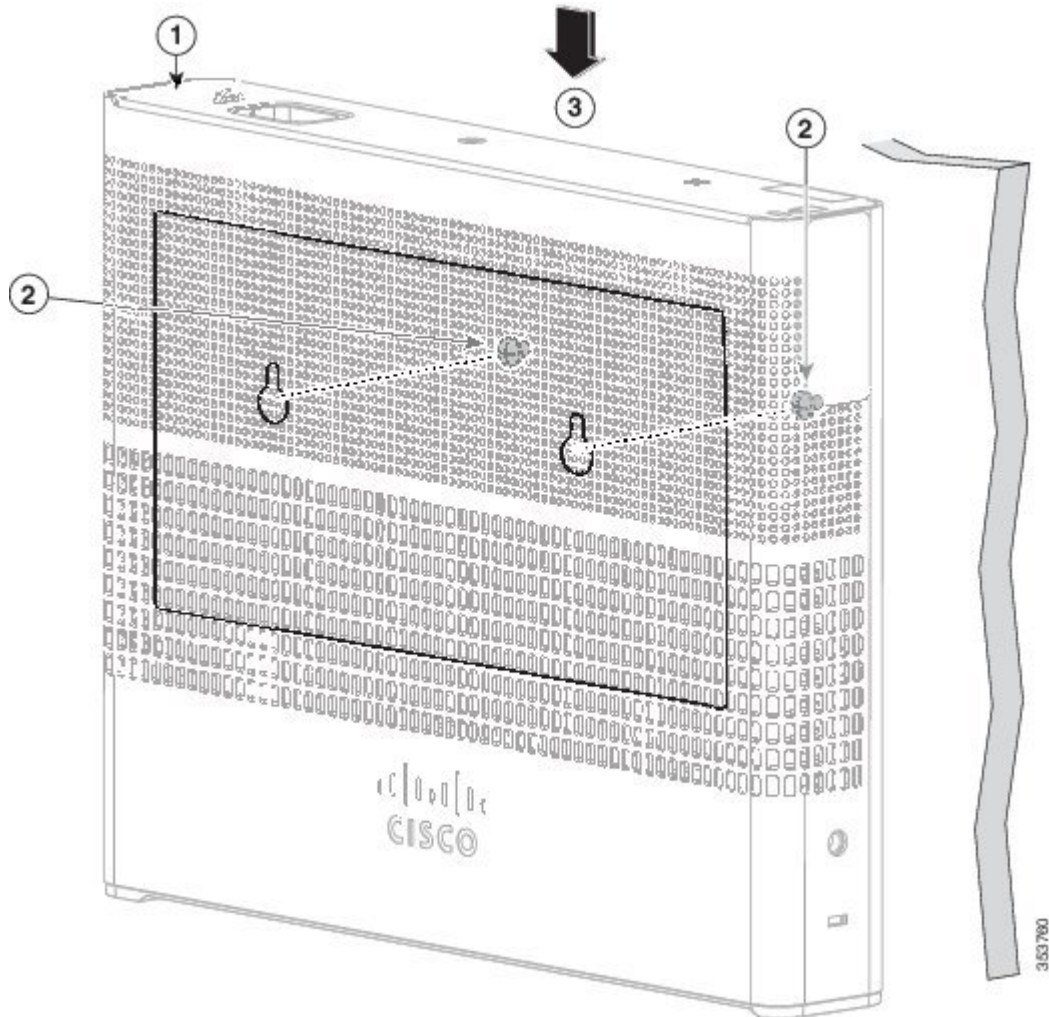
図 13: 取り付けネジの壁面への取り付け



ステップ7 ネジ用テンプレートを壁面から取り外します。

ステップ8 スイッチを取り付けネジに合わせて、ロックされるまで下方にスライドさせます。

図 14: 壁面へのスイッチの設置



取り付けトレイの使用

取り付けキット（部品番号CMPCT-MGNT-TRAY=）はオプションです。スイッチの注文時に同時にご注文いただくか、スイッチ購入後にシスコ代理店にご注文ください。

取り付けキットの内容は次のとおりです。

- No.10 プラスなベネジ×2

- No.8 プラスなベネジ×3
- 取り付けトレイ
- マグネット

取り付けトレイは取り付けネジを使用して単独で、またはマグネットと一緒に使用できます。

取り付けトレイとネジ

取り付けトレイを使用して、次の場所にスイッチを固定できます。

- 机または棚の上
- 机または棚の下
- 壁面



注意

前面パネルを上に向けた状態で、スイッチを壁面に設置しないでください。スイッチを壁面に設置する場合は、十分な通気を確保するため、およびケーブルを扱いやすくするため、安全上の規定に従ってスイッチの前面パネルを下または横に向けてください。

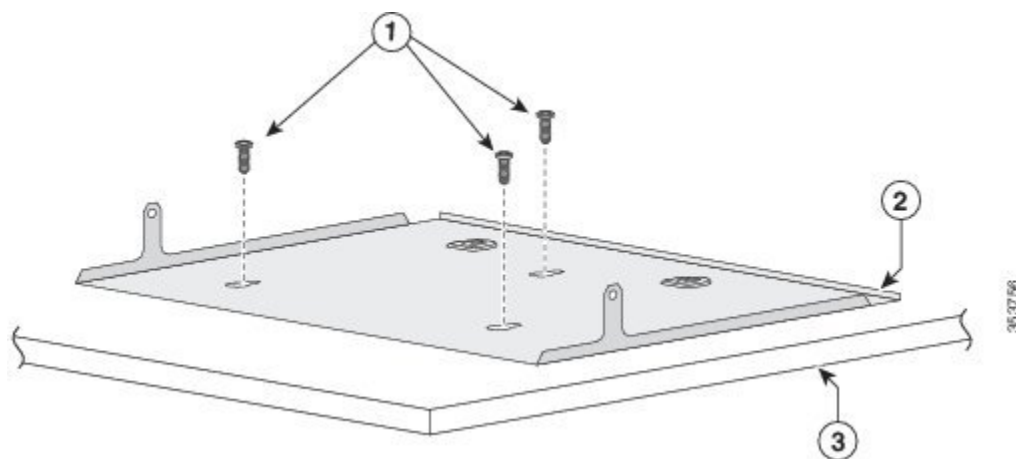
次に、スイッチを机または棚の上に設置する例を示します。机または壁の下にスイッチを設置する場合は、同様の手順を使用できます。

ステップ1 机の上に取り付けトレイを置きます。

ステップ2 0.144 インチ (3.7 mm) または #27 ドリルビットを使用して、机に 1/2 インチ (12.7 mm) の穴を3つ空けます。

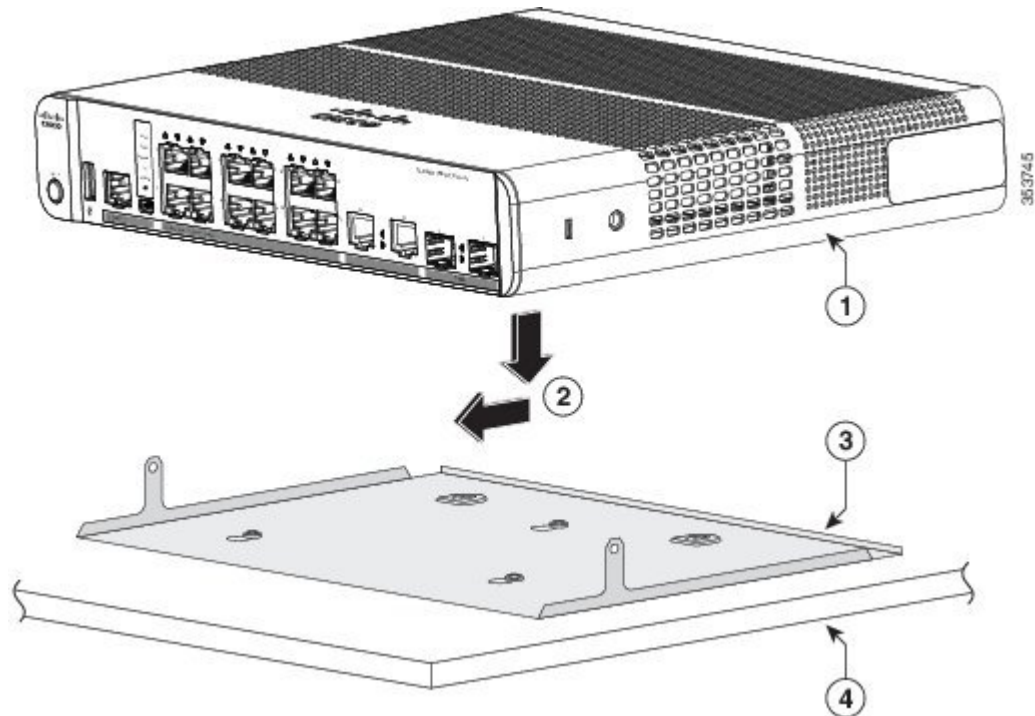
ステップ3 取り付けトレイのスロットに No.8 プラスなベネジを挿入し、締め付けます。

図 15: 机または棚へのトレイの取り付け



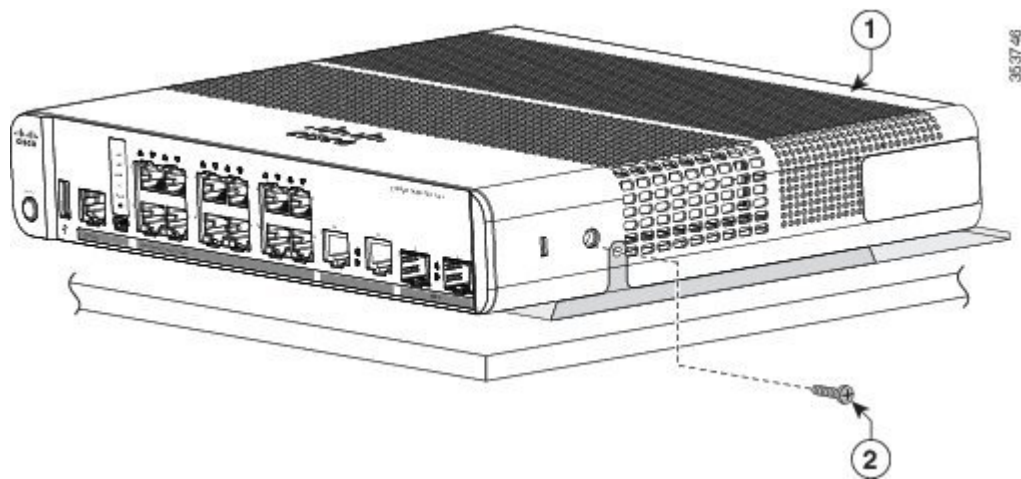
ステップ 4 スイッチを取り付けネジに合わせて、ロックされるまで前方にスライドさせます。

図 16: 取り付けトレイへのスイッチの設置



ステップ 5 取り付けトレイにスイッチをしっかりと固定するために No.10 プラスなベネジを 2 本使用します。

図 17: 取り付けトレイへのスイッチの固定



エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6cm）以上の空間を確保してください。
ステートメント 1076

取り付けトレイとマグネット

取り付けトレイにマグネットを使用して、スイッチを金属面に取り付けることができます。

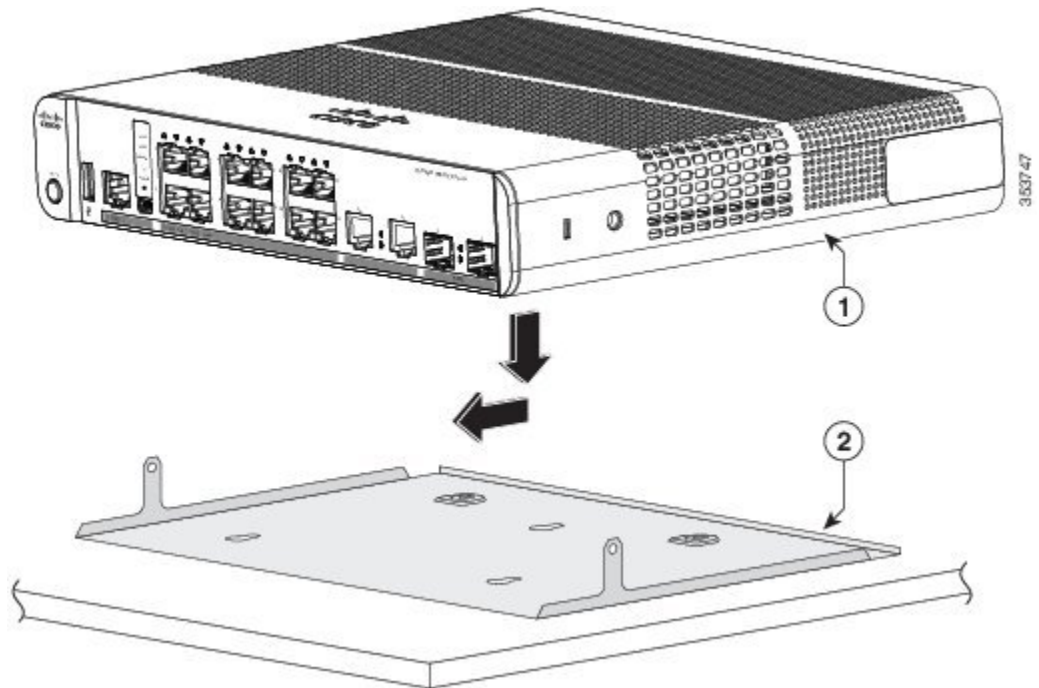


注意 マグネットは必ず取り付けトレイと一緒に使用してください。

次に、スイッチを金属の壁面に設置する例を示します。金属性の机の上または下にスイッチを設置する場合は、同様の手順に従います。

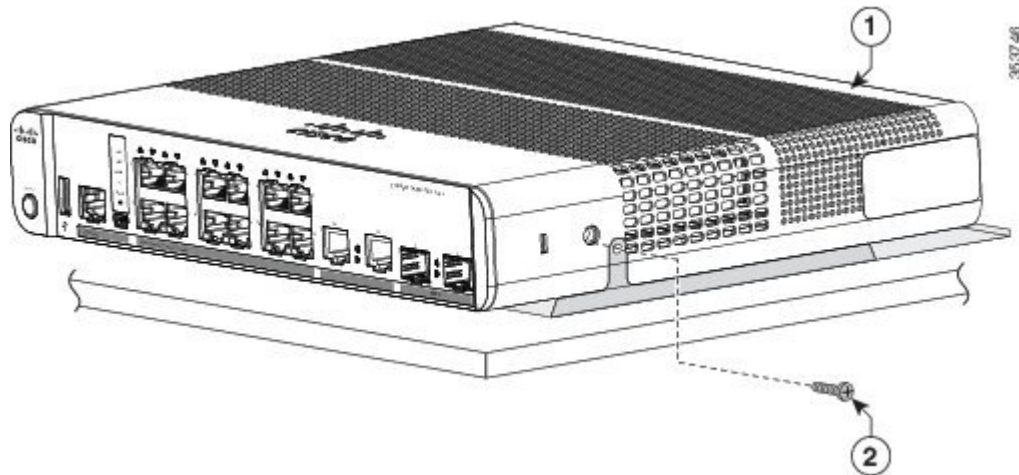
ステップ 1 取り付けトレイにスイッチを載せます。

図 18: 取り付けトレイへのスイッチの設置



ステップ 2 2本の No.10 プラスなベネジを使用して、取り付けトレイをスイッチに固定します。

図 19: スイッチへの取り付けトレイの固定

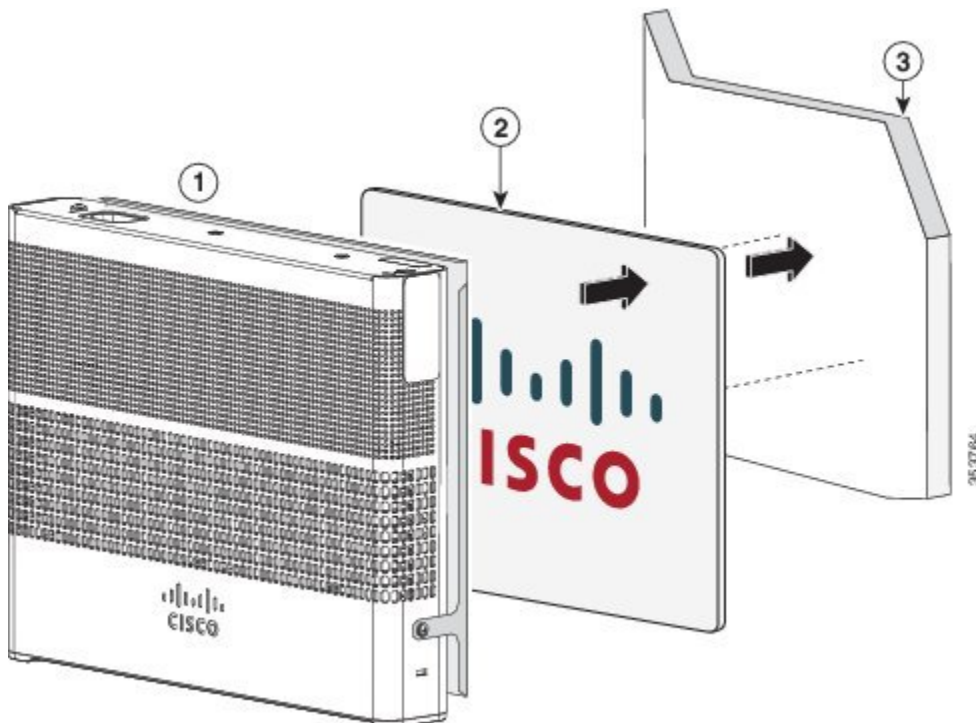


ステップ 3 取り付けトレイの底面にマグネットの片側を置きます。金属の壁面にマグネットとスイッチを設置します。

壁面への設置手順をよく読んでから、設置を開始してください。適切なハードウェアを使用しなかった場合、または、正しい手順に従わなかった場合は、人体に危険が及んだり、システムが破損したりする可能性があります。ステートメント 378

注意 前面パネルを上に向けた状態で、スイッチを壁面に設置しないでください。スイッチを壁面に設置する場合は、十分な通気を確保するため、およびケーブルを扱いやすくするため、安全上の規定に従ってスイッチの前面パネルを下または横に向けてください。

図 20: マグネットを使用した壁面への設置



エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。
ステートメント 1076

ラック内

ラックにスイッチを設置する場合は、スイッチの付属品ではないオプションのブラケットキットが必要になります。次のキットをシスコの担当者に発注してください。

- 19 インチ ラック取り付けブラケット (RCKMNT-19-CMPCT=)
- 23 および 24 インチ ラック取り付けブラケット (RCKMNT-23-CMPCT=)



警告

ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。
- ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

スイッチの片側にブラケットを取り付けます。同じ手順で、反対側にもブラケットを取り付けます。次の図は、19 インチ ラック取り付けブラケットおよび 23 インチ ラック取り付けブラケットを取り付ける方法を示しています。

図 21: ラックに取り付ける場合の 19 インチ ブラケットの取り付け

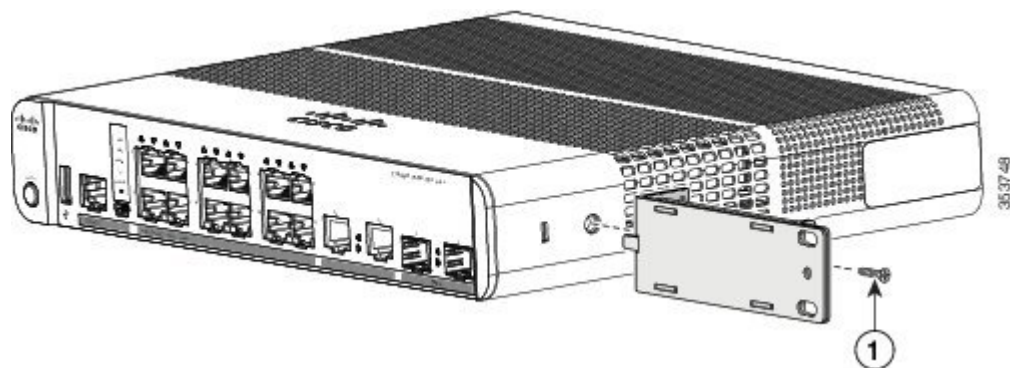
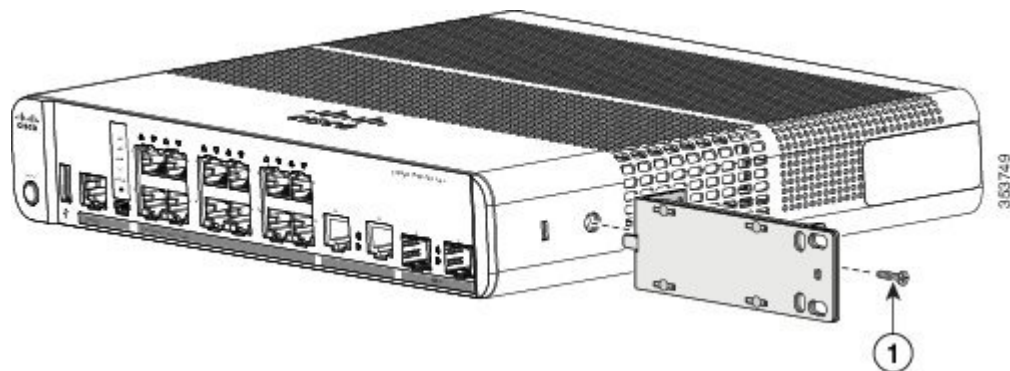


図 22: ラックに取り付ける場合の 23 インチ ブラケットの取り付け

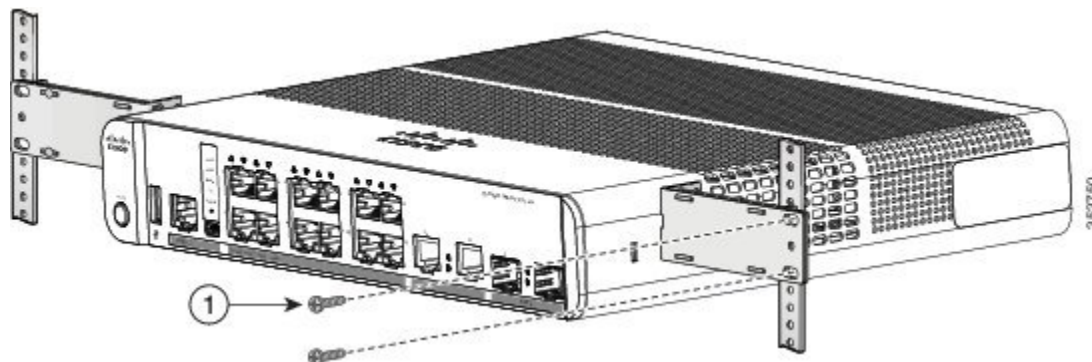


スイッチをラックに挿入して、ラックのブラケットの位置を合わせます。No.12またはNo.10のプラス小ネジを使用して、ラック内のスイッチを固定します。



エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。ステートメント 1076

図 23: ラックへのスイッチの取り付け



DIN レールへの取り付け

DIN 取り付けキット（部品番号 CMPCT-DIN-MNT=）はオプションです。スイッチの注文時に同時にご注文いただくか、スイッチ購入後にシスコ代理店にご注文ください。

DIN 取り付けキットの内容は次のとおりです。

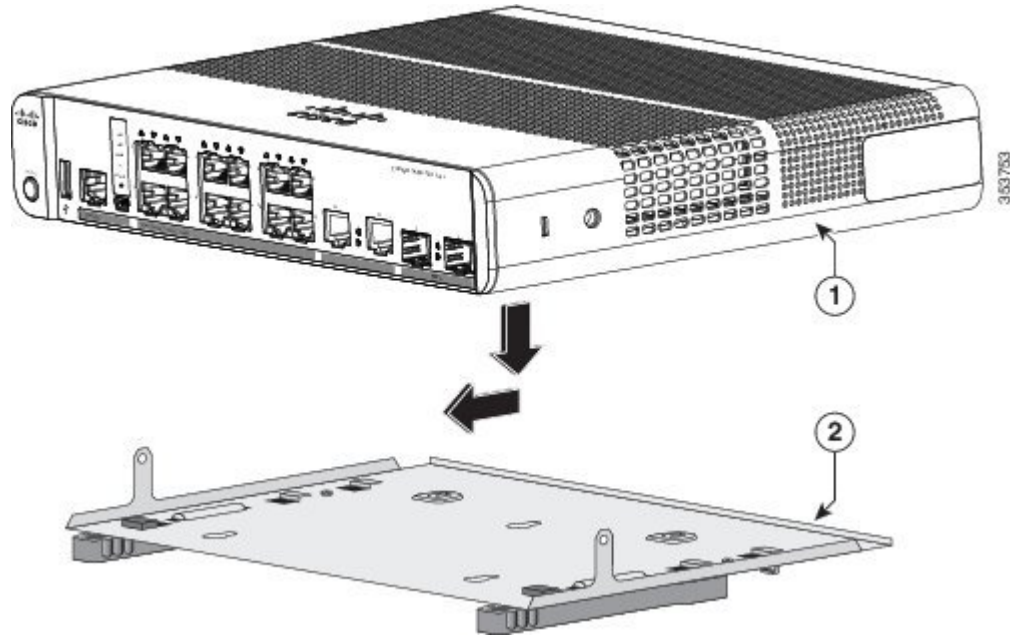
- No.10 プラスなベネジ×2
- DIN レール マウント

DIN レールにスイッチを設置するには、次の各手順に従います。

スイッチへの **DIN** 取り付けトレイの取り付け

ステップ 1 DIN レール マウント上にスイッチを置きます。

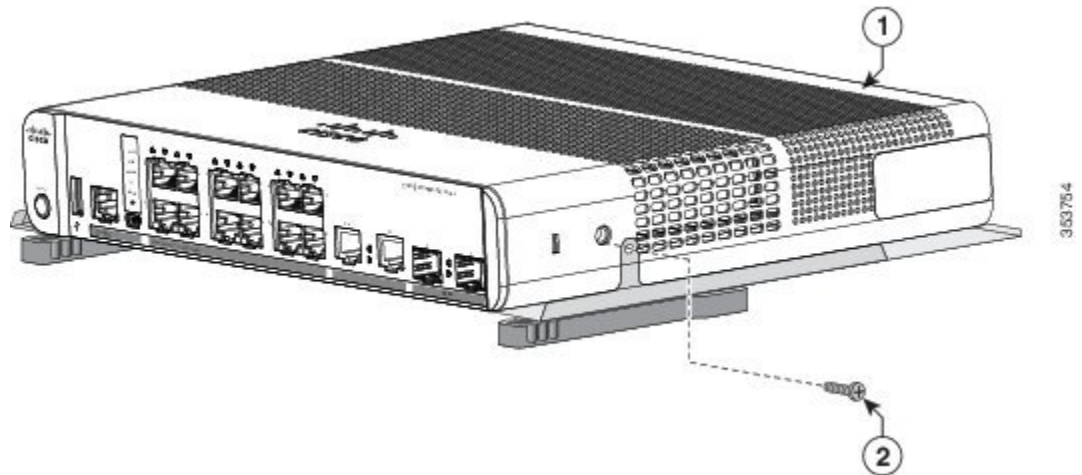
図 24: **DIN** 取り付けトレイへのスイッチの配置



1	スイッチ	2	DIN レール マウント
---	------	---	--------------

ステップ 2 2本の No.10 プラスなベネジを使用して、DIN レール マウントをスイッチに固定します。

図 25: スイッチへの *DIN* 取り付けトレイの固定



1	スイッチ	2	No.10 プラスなベネジ
---	------	---	---------------

DIN レールへのスイッチの取り付け



注意

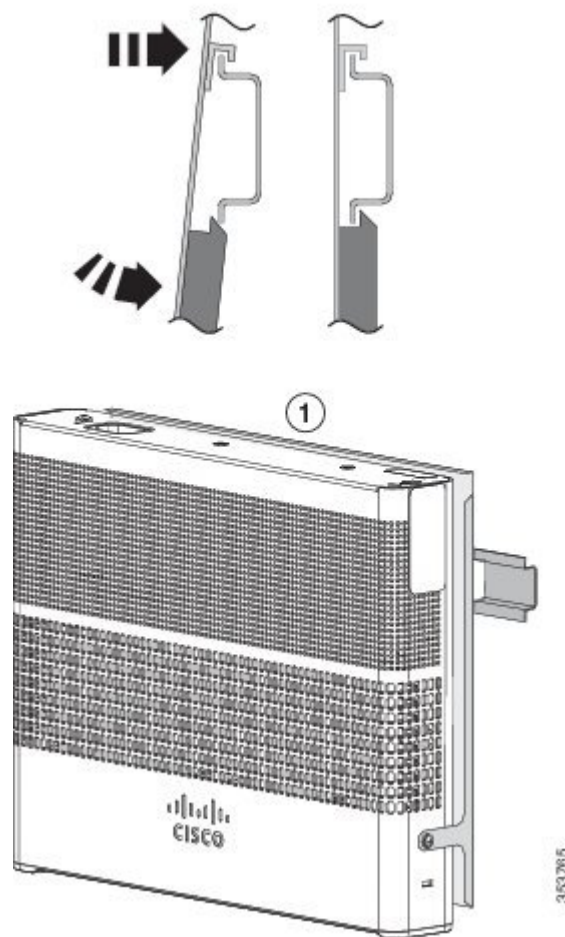
前面パネルを上に向けた状態でスイッチを設置しないでください。スイッチを DIN レールに設置する場合は、十分な通気を確保するため、およびケーブルを扱いやすくするため、安全上の規定に従ってスイッチの前面パネルを下に向けてください。



エアフローを妨げないように、通気口の周囲に3インチ（7.6 cm）以上の空間を確保してください。ステートメント 1076

ステップ1 DIN レールの正面にスイッチを直接乗せ、DIN レールマウントのクリップ上部が DIN レール上端に確実に引っかかるようにします。

図 26: *DIN* レールへのスイッチの取り付け



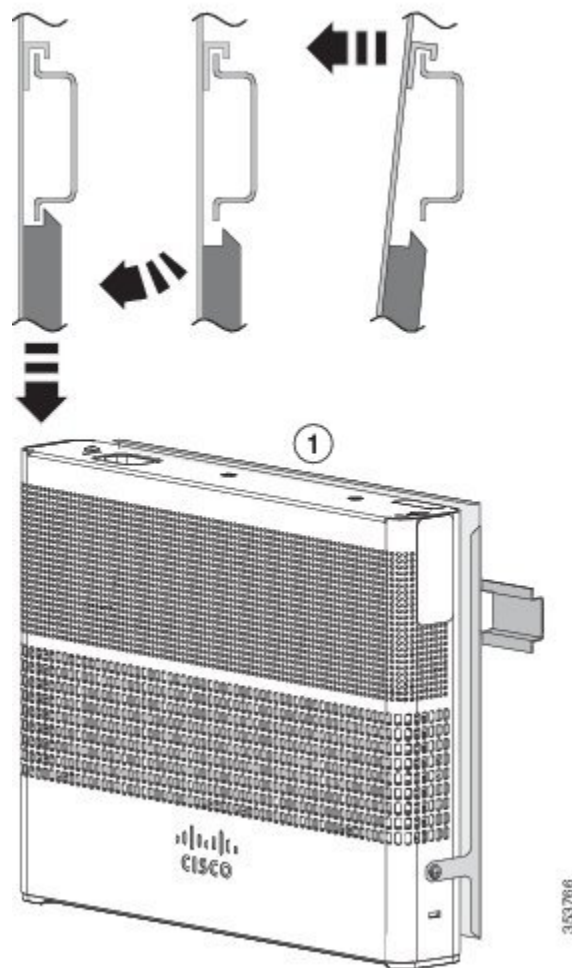
ステップ2 DIN レール上端にスイッチを引っかけた状態で、DIN レールマウント上のリリースタブがカチッとハマるまで、スイッチ下部を DIN レールの方向に押し込みます。

ステップ3 スwitchの底面をわずかに持ち上げてみて、スイッチが確実に固定されていることを確認します。

DIN レールからのスイッチの取り外し

- ステップ 1** スwitchの電源が切断されたことを確認し、スイッチの前面パネルからすべてのケーブルおよびコネクタを取り外します。
- ステップ 2** DIN レールマウントのリリースタブを下方に引きます。クリップの固定が外れたところで、スイッチの底面を持ち上げます。

図 27: スwitchの取り外し



スイッチへのアダプタ ブラケットの取り付け（任意）

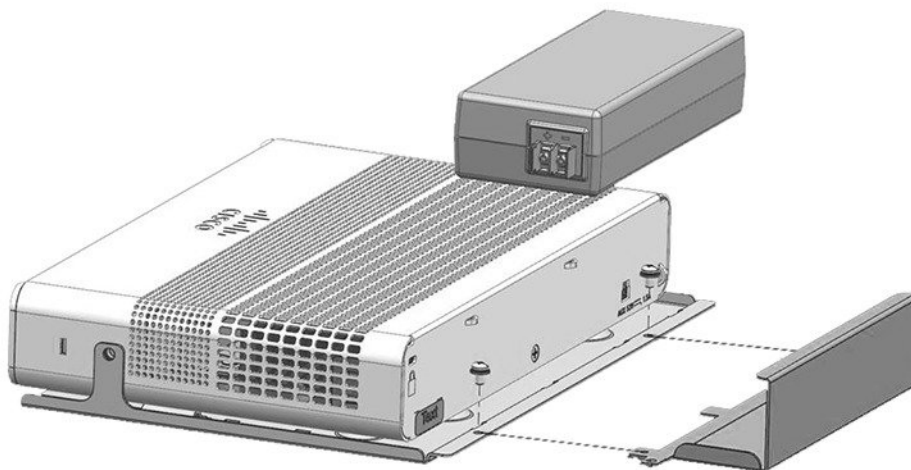
取り付けトレイまたはDIN レールマウントに配置されたスイッチに予備電源アダプタを使用して電力を供給する場合、電源アダプタを固定するために、オプションのアダプタ ブラケットを使用できます。電源アダプタ ブラケット（PWR-ADPT-BRKT）は、シスコの担当者に発注できます。

はじめる前に

- AC-DC または DC-DC 電源アダプタ（PWR-ADPT または PWR-ADPT-DC）
- 電源アダプタ ブラケット（PWR-ADPT-BRKT）
- プラス ドライバ

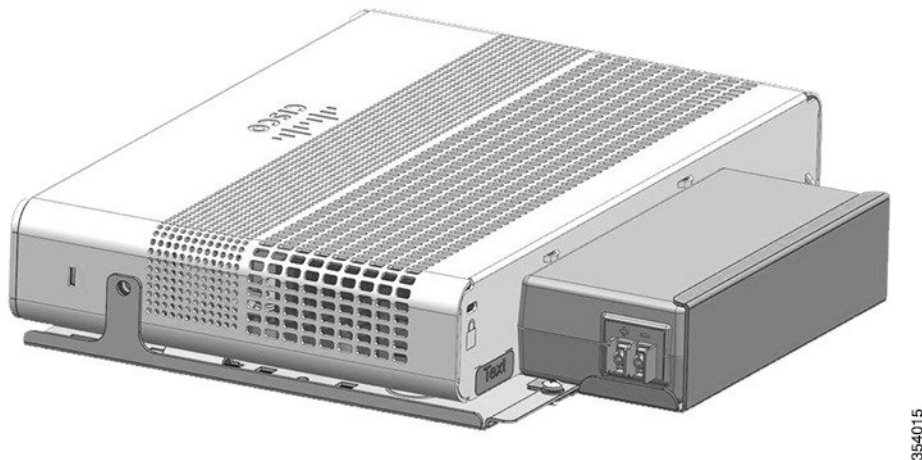
- ステップ 1** スイッチが取り付けトレイまたは DIN レールマウントに取り付けられていることを確認します。
(注) 取り付けトレイまたはDIN レールマウントがないと、電源アダプタブラケットを使用できません。
- ステップ 2** アダプタを電源アダプタ ブラケットに挿入します。
- ステップ 3** 電源アダプタ ブラケットの 3 つのタブを、取り付けトレイまたは DIN レールマウントの背面にある対応する 3 つのスロットに差し込みます。

図 28 : 取り付けトレイまたは *DIN* レールマウントへの電源アダプタ ブラケットの挿入



ステップ 4 取り付けトレイまたは DIN レール マウントのネジ穴にネジを挿入して締め付けます。

図 29: スイッチへの電源アダプタの取り付け



電源コード保持具の設置（任意）



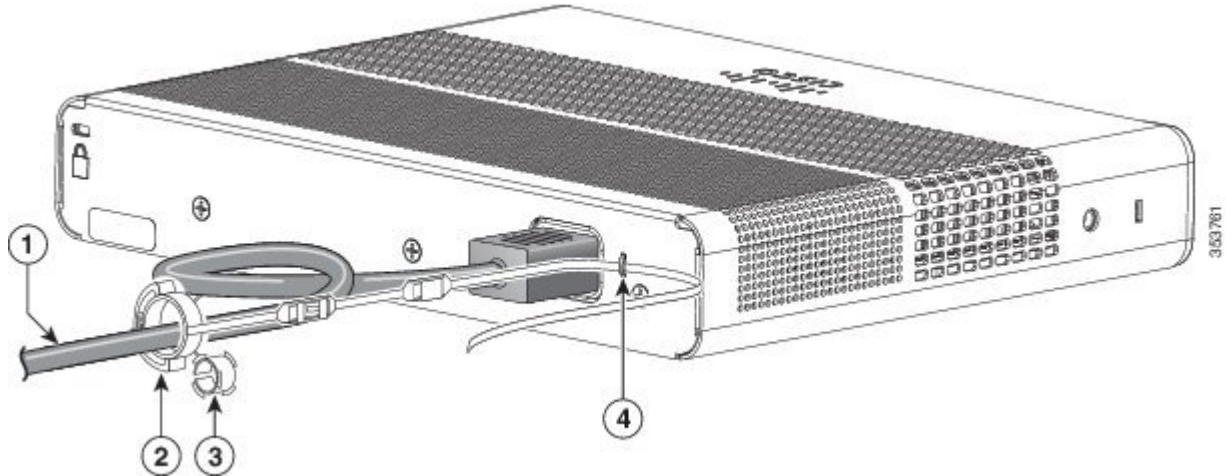
(注) ここでは、AC 電源コネクタを持つスイッチを対象とします。

電源コード保持具（部品番号 PWR-CLP=）はオプションです。スイッチの注文時に同時にご注文いただくか、スイッチ購入後にシスコ代理店にご注文ください。

ステップ 1 電源コードの太さに基づいて電源コード保持具のスリーブサイズを選択します。サイズが小さいほうのスリーブははめ込み式で、細いコードに使用します。

ステップ2 保持具に AC 電源コードを通し、スイッチ上のループに保持具の先端を通します。

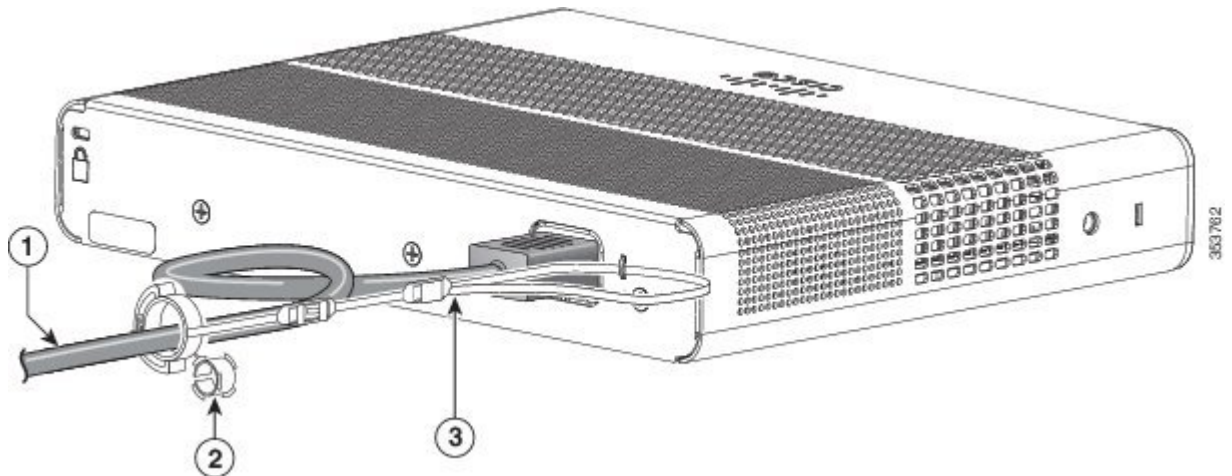
図 30: 針状のループによる保持具の差し込み方



1	AC 電源コード	3	細い電源コード用のスリーブ
2	電源コード保持具	4	Loop

ステップ3 保持具の先端を最初のラッチに通します。

図 31: ラッチへの保持具の通し方

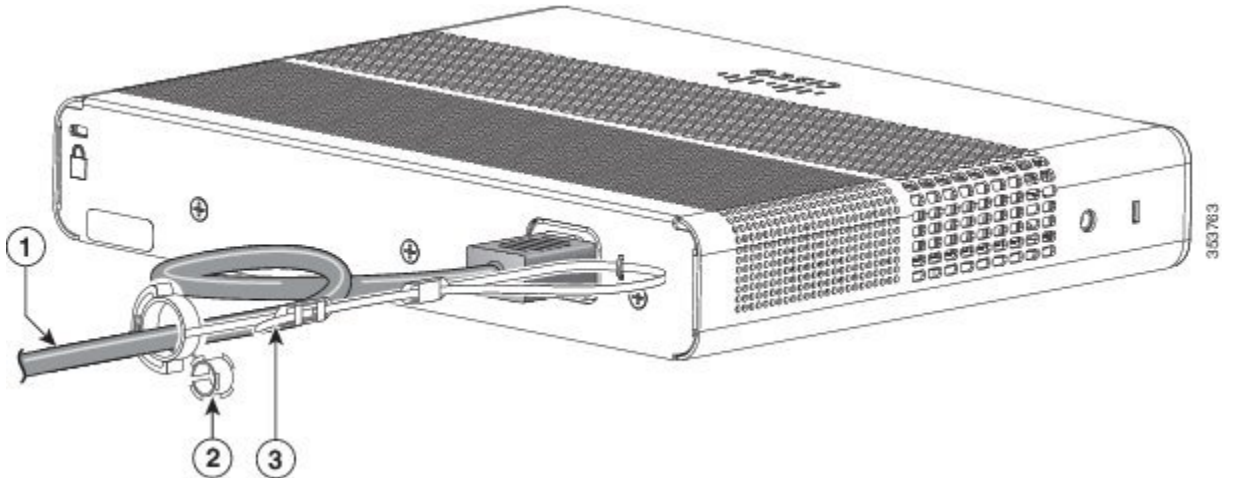


1	AC 電源コード	3	ラッチ
---	----------	---	-----

2	細い電源コード用の小型スリーブ		
---	-----------------	--	--

ステップ 4 保持具の先端をもう 1 つのラッチに通して固定します。

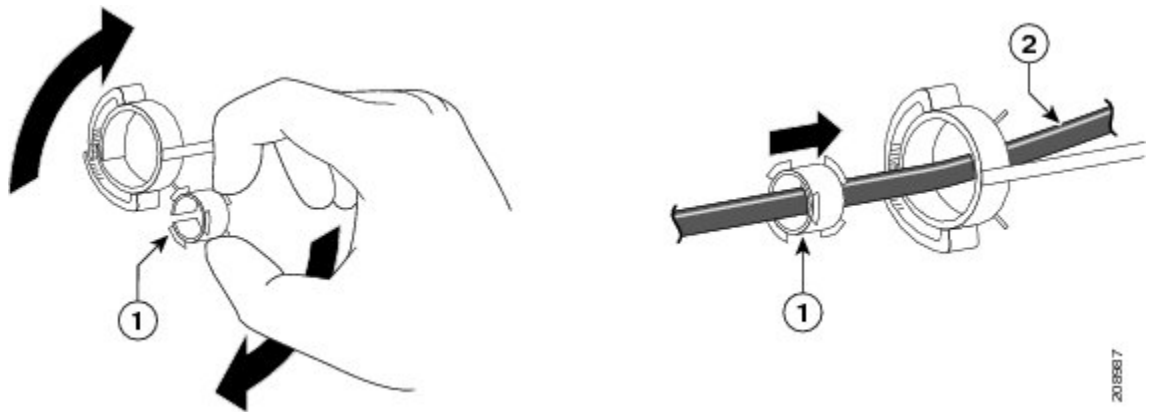
図 32: 保持具の固定



1	AC 電源コード	3	ラッチ
2	細い電源コード用の小型スリーブ		

ステップ 5 (任意) 細い電源コードには小型スリーブを使用します。細いコードに小型スリーブを使用すると、高い安定性が得られます。スリーブを取り出し、電源コードにはめ込みます。

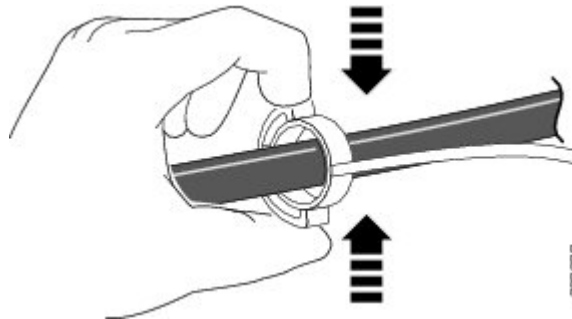
図 33: 電源コードにはめ込んだスリーブ



1	細い電源コード用の小型スリーブ	2	AC 電源コード
---	-----------------	---	----------

ステップ 6 保持具を押し込んで AC 電源コードを固定します。

図 34：保持具への電源コードの固定



ケーブルガードの取り付け（任意）

ケーブルガードは、設置後のケーブルに手が加えられることを防止します。ケーブルガード（CMPCT-CBLE-GRD=）はスイッチに付属していないので、必要な場合はシスコ代理店にご注文ください。



(注) 机の上、机の下、または壁面にスイッチを取り付ける場合に、ケーブルガードを使用できます。

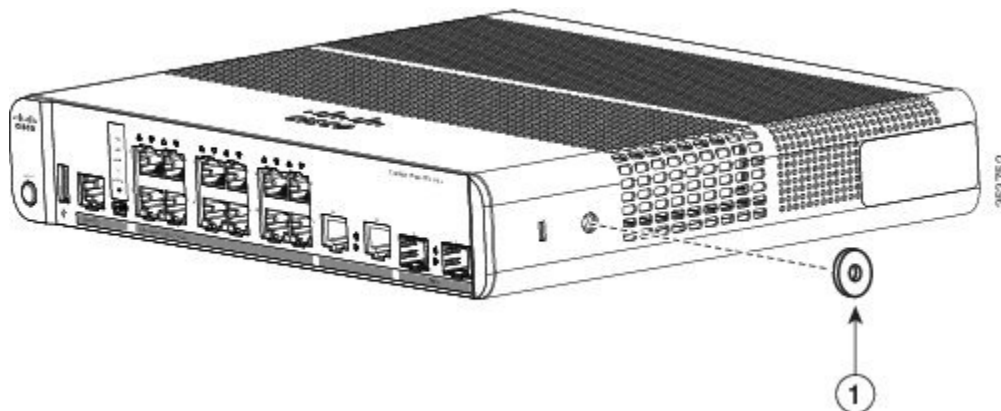
ケーブルガードには、以下のものが付属しています。

- 0.5 インチ（12.7 mm）の No.8 プラス木ネジ x 2
- No.10 プラスなベネジ x 2
- ワッシャ X 2

ステップ 1 （任意）ケーブルガードを設置する前に付属のワッシャを取り付けます。

(注) これは、壁面設置用ブラケットを取り付けない場合にのみ必要です。

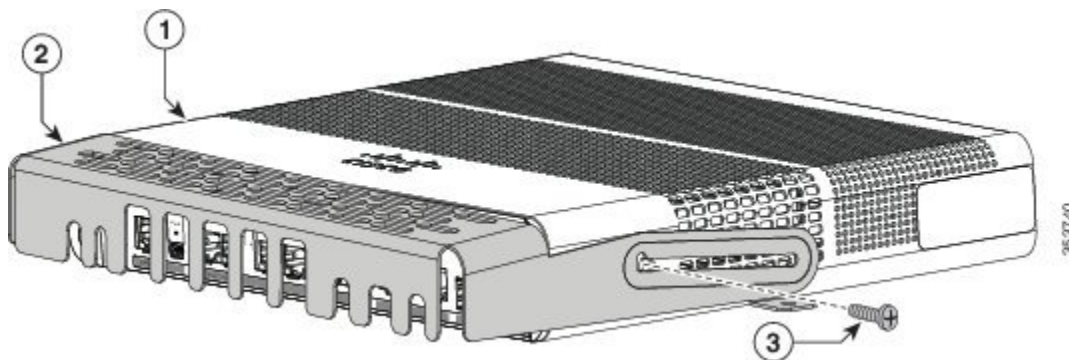
図 35: ワッシャの使用方法



1	ワッシャ
---	------

ステップ 2 付属の No.10 なベネジを使用して、スイッチにケーブルガードを取り付けます。

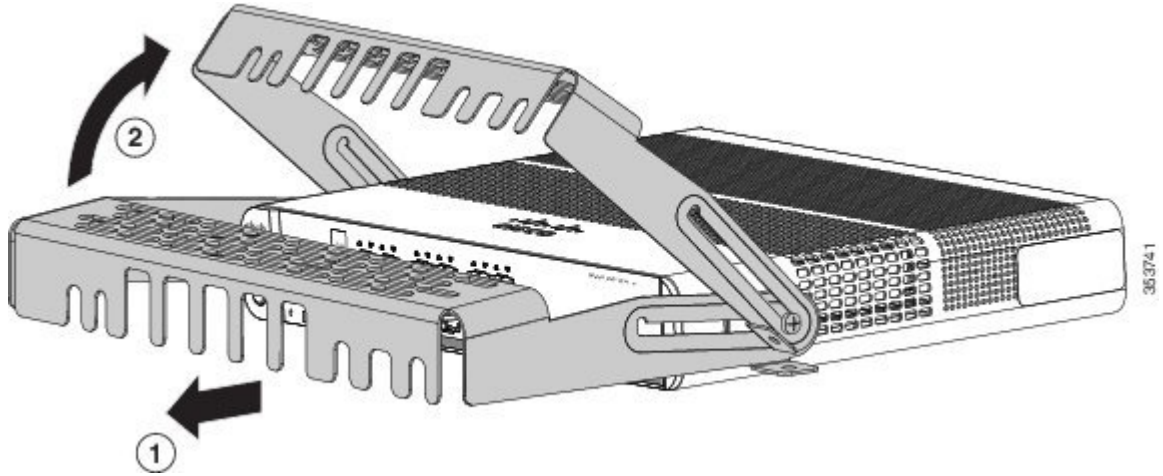
図 36: スイッチへのケーブルガードの取り付け



1	スイッチ	3	No.10 プラスなベネジ× 2
2	ケーブルガード		

ステップ 3 No.10 プラスなベネジを緩め、ケーブルガードを外側に引き出してから上方に持ち上げ、ケーブルを接続できるようにします。

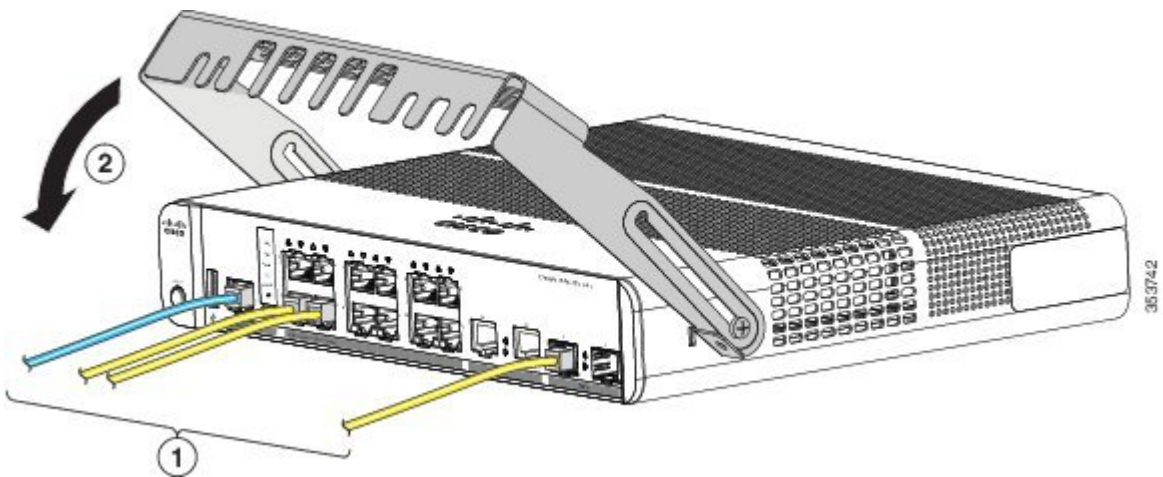
図 37: ケーブルガードの持ち上げ方



1	ケーブルガード	2	ケーブルガードの移動方向
---	---------	---	--------------

ステップ 4 スイッチにケーブルを接続します。

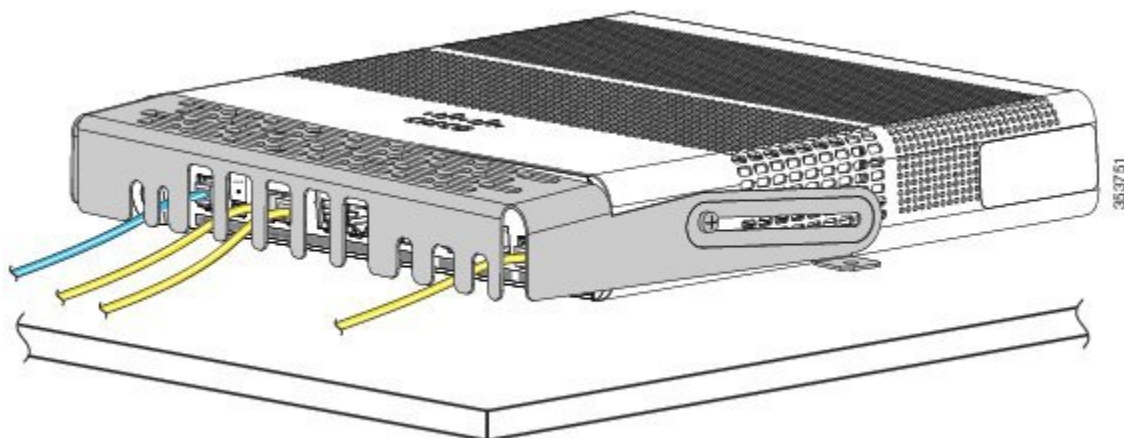
図 38: スイッチへのケーブルの接続



1	ケーブル	2	ケーブルガードの移動方向
---	------	---	--------------

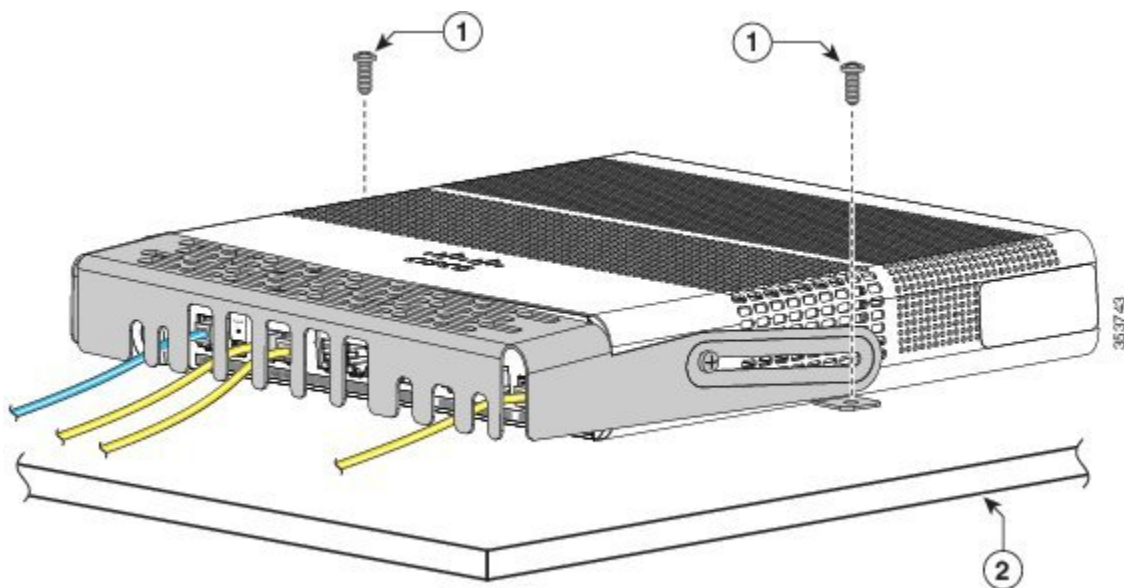
ステップ 5 接続したケーブルをケーブルガード前面のスロットに入れます。次の図に示すように、ケーブルガードをスライドさせます。ネジを締めます。

図 39: ケーブルガードを通したケーブルの配線



ステップ 6 (任意) 机または壁にケーブルガードを固定するには、0.144 インチ (3.7 mm) または #27 のドリルビットを使用して、2 ヶ所のケーブルガード取り付け位置に 1/2 インチ (12.7 mm) の穴を開けます。この取り付け穴に、付属の 0.5 インチ (12.7 mm) の No.8 プラス木ネジを挿入して締め付けます。

図 40: 机へのケーブルガードの固定



1	No.8 プラス木ネジ	2	机または棚
---	-------------	---	-------

SFP および SFP+ モジュールの取り付け

スイッチモジュールによっては、SFPモジュール、SFP+モジュール、またはその両方がサポートされています。SFPスロットではSFPモジュールだけがサポートされます。SFP+スロットでは、SFPモジュールとSFP+モジュールの両方がサポートされます。

サポートするSFPモジュールの一覧は、Cisco.comにあるスイッチのリリースノートを参照してください。スイッチには、シスコ製SFPモジュールだけを使用してください。各シスコ製モジュールには、セキュリティ情報が符号化されたシリアルEEPROMが組み込まれています。この符号化によって、シスコはそのモジュールがスイッチの要件を満たしているかどうかを識別し、検証できます。

SFPモジュールの取り付け、取り外し、ケーブル接続、およびトラブルシューティングについては、装置に付属しているモジュールのマニュアルを参照してください。

SFP または SFP+ モジュールの取り付け

はじめる前に

SFPモジュールまたはSFP+モジュールを取り付けるには、次の注意事項に従ってください。

- モジュールポートの埃よけプラグ、または光ファイバケーブルのゴム製キャップは、ケーブルを接続する準備が整うまでは取り外さないでください。これらのプラグおよびキャップは、モジュールポートやケーブルを汚れや周辺光から保護する役割を果たします。
- 静電破壊を防ぐため、ケーブルをスイッチや他の装置に接続する場合は、ボードおよびコンポーネントを正しい手順で取り扱うようにしてください。



注意 SFPモジュールやSFP+モジュールの取り外しや取り付けを行うと、モジュールの耐用期間が短くなる可能性があります。必要な場合以外は、SFPモジュールの着脱を行わないようにしてください。



クラス1レーザー製品です。ステートメント 1008

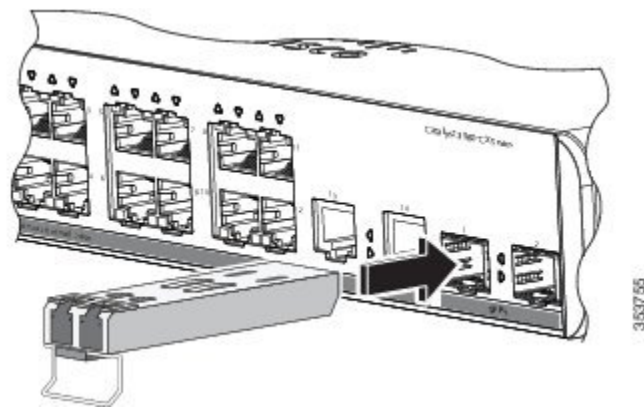
ステップ1 静電気防止用リストストラップを手首に巻き、ストラップの機器側を塗装されていない金属面に取り付けます。

ステップ2 モジュール上部で送信 (TX) および受信 (RX) マークを探します。

SFP または SFP+ モジュールによっては、送信側と受信側 (TX と RX) の印が、接続の方向を示す矢印に置き換えられている場合もあります。

- ステップ3 ベールクラスプ ラッチ付きのモジュールの場合は、ロック解除の位置までラッチを開きます。
- ステップ4 モジュールをスロットの開口部に合わせて、コネクタをスロットの奥にはめ込みます。
- ステップ5 ベールクラスプ ラッチ付きのモジュールの場合は、ラッチを閉じます。
- ステップ6 光ファイバ SFP または SFP+ モジュールの場合は、埃よけプラグを取り外して保管しておきます。
- ステップ7 SFP ケーブルを接続します。

図 41 : SFP モジュールの取り付け



SFP または SFP+ モジュールの取り外し

- ステップ1 静電気防止用リストストラップを手首に巻き、ストラップの機器側を塗装されていない金属面に取り付けます。
- ステップ2 SFP モジュールからケーブルを取り外します。ケーブル コネクタ プラグを再び取り付ける際には、送信 (TX) と受信 (RX) を間違えないように注意してください。
- ステップ3 光インターフェイスを清潔に保つために、SFP モジュールまたは SFP+ モジュールの光ポートにダストプラグを取り付けます。
- ステップ4 ベールクラスプ ラッチ付きのモジュールの場合は、ベールを下げて、モジュールを取り外します。ラッチが手の届きにくい場所にあり、指でラッチを解除できない場合には、小型マイナスドライバーなどの細長い工具を使用してラッチを解除します。
- ステップ5 SFP または SFP+ モジュールを持ち、モジュール スロットからゆっくりと引き出します。
- ステップ6 モジュールは、静電気防止用袋に収めるか、その他の保護環境下に置いてください。

10/100/1000 PoE+ ポートの接続

各ポートは、IEEE 802.3af および 802.3at (PoE+) に準拠した装置をサポートする PoE 機能を備えており、Cisco IP Phone や Cisco Aironet アクセス ポイントをサポートするシスコ独自規格の PoE 機能も備えています。

IP Phone またはアクセス ポイントを接続するとき、各ポートが自動的に電力を供給するかどうかを個別に制御することができます。

最新の PoE プランニング ツールにアクセスするには、Cisco.com の次の URL から入手できる Cisco Power Calculator を利用してください。 <http://tools.cisco.com/cpc/launch.jsp>

このアプリケーションを利用することで、特定の PoE 構成の電源要件を計算することができます。計算結果には、出力電流、出力電力、およびシステムの熱放散が表示されます。



警告

絶縁されていない金属接点、導体、または端子を Power over Ethernet (PoE) 回路の相互接続に使用すると、電圧によって感電事故が発生することがあります。危険性を認識しているユーザまたは保守担当者だけに立ち入りが制限された場所を除いて、このような相互接続方式を使用しないでください。立ち入りが制限された場所とは、特殊な工具、錠と鍵、またはその他のセキュリティ手段を使用しないと入れない場所を意味します。ステートメント 1072



注意

カテゴリ 5e およびカテゴリ 6 のケーブルには、高レベルの静電気が蓄積されることがあります。必ずケーブルを適切かつ安全な方法でアースしてから、スイッチや他の装置に接続してください。



注意

不適合なケーブル配線または装置が原因で、PoE ポートに障害が発生している可能性があります。必ず規格に適合したケーブル配線で、シスコ独自規格の IP Phone およびワイヤレス アクセス ポイントである IEEE 802.3af または 802.3at (PoE+) に準拠した装置に接続してください。PoE 障害の原因となっているケーブルや装置は取り外す必要があります。

手順の概要

1. ケーブルの一端をスイッチの PoE ポートに接続します。
2. 接続先装置の RJ-45 コネクタに、ケーブルのもう一方の端を接続します。両方の装置間でリンクが確立されると、ポート LED が点灯します。
3. 必要に応じて、接続先装置を再設定してから再起動します。
4. ステップ 1～3 を繰り返して、各装置を接続します。

手順の詳細

ステップ 1 ケーブルの一端をスイッチの PoE ポートに接続します。

ステップ 2 接続先装置の RJ-45 コネクタに、ケーブルのもう一方の端を接続します。両方の装置間でリンクが確立されると、ポート LED が点灯します。

STP がトポロジを検出し、ループの有無を確認している間、ポート LED はオレンジに点灯します。このプロセスには 30 秒ほどかかり、その後、ポート LED はグリーンに点灯します。LED が消灯している場合は、他の装置がオンになっていないか、ケーブルに問題があるか、または他の装置のアダプタに問題がある可能性があります。

ステップ 3 必要に応じて、接続先装置を再設定してから再起動します。

ステップ 4 ステップ 1～3 を繰り返して、各装置を接続します。

(注) IEEE 802.3af を完全にはサポートしていない Cisco IP Phone やアクセス ポイントなど、旧型の受電デバイスの多くは、クロス ケーブルでスイッチに接続すると PoE に対応できない場合があります。

10/100/1000 ポートの接続

スイッチの 10/100/1000 ポートの設定は、接続先装置の速度で動作するように変更されます。接続先のポートが自動ネゴシエーションをサポートしていない場合は、速度およびデュプレックスのパラメータを手動で設定できます。自動ネゴシエーション機能のない装置または手動で速度とデュプレックスのパラメータが設定されている装置に接続すると、パフォーマンスの低下やリンク障害が発生することがあります。

最大限のパフォーマンスを実現するためには、次のいずれかの方法でイーサネットポートを設定してください。

- 速度とデュプレックスの両方について、ポートに自動ネゴシエーションを実行させます。
- 接続の両側でインターフェイスの速度とデュプレックスに関するパラメータを設定します。

Auto-MDIX 接続

スイッチの自動ネゴシエーション機能と Auto-MDIX 機能は、デフォルトでイネーブルになっています。

自動ネゴシエーション機能を利用すると、接続先装置の速度で動作するようにスイッチポートの設定が変化します。接続先の装置が自動ネゴシエーションをサポートしていない場合は、スイッチインターフェイスの速度とデュプレックスのパラメータを手動で設定できます。

Auto-MDIX 機能を利用するとスイッチで銅線イーサネット接続に必要なケーブルタイプが検出され、それに応じてインターフェイスが設定されます。

Auto-MDIX がディセーブルの場合、この表のガイドラインを使用して正しいケーブルを選択してください。

表 2: 推奨イーサネットケーブル (Auto-MDIX がディセーブルの場合)

デバイス	クロス ケーブル ⁶	ストレート ケーブル
スイッチとスイッチ	はい	いいえ
スイッチとハブ	はい	いいえ
スイッチとコンピュータまたはサーバ	いいえ	はい
スイッチとルータ	いいえ	はい
スイッチと IP Phone	いいえ	はい

⁶ 100BASE-TX と 1000BASE-T のトラフィックでは、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、またはカテゴリ 6 の 4 ツイストペア ケーブルが必要です。10BASE-T トラフィックでは、カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 のケーブルを使用できます。

次の作業

デフォルト設定で十分な場合は、これ以上のスイッチの設定作業は必要ありません。デフォルト設定は、次のいずれかの管理オプションを使用して変更できます。

- Network Assistant アプリケーションを起動します (詳細については、スタートアップ ガイドを参照してください)。この GUI により、スイッチ クラスタまたは個別のスイッチの設定とモニタができます。
- コンソールから CLI を使用して、クラスタのメンバまたは個別のスイッチとしてスイッチを設定します。
- Cisco Prime Infrastructure アプリケーションを使用します。



第 3 章

トラブルシューティング

この章の内容は、次のとおりです。

- [問題の診断, 53 ページ](#)
- [スイッチのリセット, 58 ページ](#)
- [スイッチのシリアル番号の確認, 58 ページ](#)

問題の診断

前面パネルにある LED からは、スイッチのトラブルシューティングに役立つ情報が得られます。LED の状態を確認することによって、POST（電源投入時セルフテスト）のエラー、ポートの接続問題、およびスイッチ全体のパフォーマンスを把握できます。また、Device Manager、CLI、または SNMP ワークステーションから統計情報を入手することもできます。

スイッチの POST 結果



(注) POST エラーは通常、修復不能です。スイッチが POST に失敗した場合は、シスコのテクニカルサポート担当者にお問い合わせください。

スイッチ LED

スイッチを直接操作できる場合は、ポート LED に表示されているスイッチのトラブルシューティング情報を確認してください。LED のカラーと意味については、「LED」を参照してください。

スイッチの接続状態

不良または破損したケーブル

ケーブルにわずかでも傷や破損がないか必ず確認してください。物理層の接続に問題がないように見えるケーブルでも、配線やコネクタのごくわずかな損傷が原因でパケットが破損することがあります。ポートでパケットエラーが多く発生したり、ポートがフラッピング（リンクの切断および再接続）を頻繁に繰り返したりする場合は、ケーブルにこのような破損がある場合があります。

- 銅線ケーブルまたは光ファイバケーブルを調べるか、問題のないケーブルに交換します。
- ケーブルコネクタで破損または欠落したピンがないか確認します。
- 発信元と宛先間のパッチパネルの接続やメディアコンバータに問題がないことを確認します。可能な場合は、パッチパネルをバイパスするか、故障しているメディアコンバータ（光ファイバ/銅線）を除去します。
- 可能な場合は、ケーブルを他のポートまたはインターフェイスに使用した場合に、問題が発生するかどうかを確認します。

イーサネットケーブルと光ファイバケーブル

接続に適した正しいケーブルであることを確認します。

- イーサネットの場合、10 Mb/s UTP 接続にはカテゴリ 3 の銅線ケーブルを使用します。10/100/1000 Mbps 接続には、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、またはカテゴリ 6 の UTP を使用します。
- 光ファイバケーブルの場合、使用する距離とポートタイプに適した正しいケーブルであることを確認します。接続先装置の両方のポートが一致しており、同じ符号化方式、光周波数、およびファイバタイプを使用していることを確認します。
- 銅線接続の場合は、ストレートケーブルを使用すべきところにクロスケーブルが使用されていたり、クロスケーブルを使用すべきところにストレートケーブルが使用されていたりしないかを確認します。スイッチの Auto-MDIX を有効にするか、ケーブルを交換します。

Link Status

両側のリンクが確立されていることを確認します。配線の 1 本が切れていたり、ポートの 1 つがシャットダウンしていたりすると、片側ではリンクが確立されていても反対側では確立されていない可能性があります。

ポート LED が点灯していても、ケーブルが正常であるという保証はありません。ケーブルに物理的な圧力がかかり、最低限のレベルで機能している場合もあります。ポート LED が点灯しない場合は、次のことを確認します。

- ケーブルをスイッチから外して、問題のない装置に接続します。

- ケーブルの両端が正しいポートに接続されていることを確認します。
- 両方の装置の電源が入っていることを確認します。
- 正しいケーブルタイプが使用されていることを確認します。
- 接触不良がないか確認します。完全に接続されているように見えても、そうでないことがあります。ケーブルをいったん外して、接続し直してください。

10/100/1000 ポートの接続

ポートが異常を示している場合：

- MODE ボタンを使用して、すべてのポートのステータスを確認します。
- **show interfaces** 特権 EXEC コマンドを使用して、ポートが **errdisable**、**disabled**、または **shutdown** の状態になっていないかどうかを確認します。必要に応じて、ポートを再度イネーブルにします。

10/100/1000 PoE+ ポートの接続

PoE ポートに接続された充電デバイスに電力が供給されていない場合：

- MODE ボタンを使用して、すべてのポートの PoE のステータスを確認します。
- **show interfaces** 特権 EXEC コマンドを使用して、ポートが **error-disabled**、**disabled**、または **shutdown** の状態になっていないかどうかを確認します。必要に応じて、ポートを再度イネーブルにします。
- スイッチに取り付けられている電源モジュールの電力が、接続先装置の電力要件を満たしていることを確認します。
- 接続先装置に電力を供給するために十分な PoE 供給電力があることを確認します。使用可能な PoE 供給電力を確認するには、**show power inline** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。
- ケーブルタイプを確認します。IEEE 802.3af がフル サポートされていない Cisco IP Phone や アクセス ポイントなどの多くのレガシー装置では、クロス ケーブルでスイッチに接続されている場合に PoE がサポートされない場合があります。このような場合は、クロスケーブルをストレート ケーブルに交換してください。



注意

不適合なケーブル配線または装置が原因で、PoE ポートに障害が発生している可能性があります。必ず規格に適合したケーブル配線で、シスコ独自規格の IP Phone およびワイヤレス アクセス ポイント、または IEEE 802.3af に準拠した装置に接続してください。PoE 障害の原因となっているケーブルや装置は取り外す必要があります。

SFP および SFP+ モジュール

スイッチには、シスコ製 SFP または SFP+ モジュールだけを使用してください。各シスコ製モジュールには、セキュリティ情報が符号化されたシリアルEEPROMが組み込まれています。この符号化によって、シスコはそのモジュールがスイッチの要件を満たしているかどうかを識別し、検証できます。

- SFP モジュールを調査します。疑わしい SFP モジュールを故障していないことがわかっているモジュールに交換します。モジュールが使用するプラットフォームでサポートされていることを確認します。（Cisco.com にあるスイッチのリリース ノートに、スイッチがサポートする SFP モジュールの一覧が示されています）。
- **show interfaces** 特権 EXEC コマンドを使用して、ポートまたはモジュールが **error-disabled**、**disabled**、または **shutdown** の状態になっていないかどうかを確認します。必要に応じて、ポートを再度イネーブルにします。
- すべての光ファイバがクリーンな状態で安全に接続されていることを確認します。

インターフェイスの設定

インターフェイスがディセーブルになっていないか、電源がオフになっていないかを確認してください。リンクの片側でインターフェイスを手動でシャットダウンした場合は、そのインターフェイスが再度イネーブルにされるまで復活しません。**show interfaces** イネーブル EXEC コマンドを使用して、インターフェイスが **error-disabled**、**disabled**、または **shutdown** の状態になっていないかどうかを確認します。必要に応じて、インターフェイスを再度イネーブルにします。

エンド デバイスへの ping

ping を使用して、最初は直接接続されているスイッチから始めて、接続できない原因となっている箇所を突き止めるまで、ポートごと、インターフェイスごと、トランクごとに段階的にさかのぼって調べます。各スイッチの連想メモリ（CAM）テーブル内に、エンドデバイスの MAC アドレスが存在していることを確認します。

スパニングツリーのループ

スパニングツリー プロトコル（STP）にループが発生すると、重大なパフォーマンス上の問題が引き起こされ、その状況がポートやインターフェイスの問題のように見えることがあります。

ループは、単方向リンクによって引き起こされることがあります。これは、スイッチが送信したトラフィックをネイバーが受信しているものの、スイッチはネイバーから送信されたトラフィックを受信していないときに発生します。光ファイバケーブルの断線、その他のケーブル接続の問題、またはポートの問題が原因になることがあります。

スイッチで単方向リンク検出（UDLD）をイネーブルにすると、単方向リンク問題の特定に役立ちます。

スイッチのパフォーマンス

速度、デュプレックス、および自動ネゴシエーション

ポートの統計情報に、アライメントエラー、フレームチェックシーケンス (FCS)、またはレイトコリジョンエラーが大量に表示される場合は、速度またはデュプレックス設定の不一致を示していることがあります。

2台のスイッチ間、スイッチとルータ間、またはスイッチとワークステーション/サーバ間でデュプレックスと速度の設定が一致しない場合は、速度とデュプレックスに共通の問題が発生します。この不一致は、速度およびデュプレックスを手動で設定した場合や、2台の装置間における自動ネゴシエーションの問題が原因となることがあります。

スイッチのパフォーマンスを最大限に引き出してリンクを保証するには、次のいずれかのガイドラインに従ってデュプレックスまたは速度の設定を変更してください。

- 速度とデュプレックスの両方について、両方のポートで自動ネゴシエーションを実行させます。
- 接続の両端でインターフェイスの速度とデュプレックスのパラメータを手動で設定します。
- リモートデバイスが自動ネゴシエートしない場合は、2つのポートのデュプレックス設定を同じにします。速度パラメータは、接続先ポートが自動ネゴシエーションを実行しない場合でも自動的に調整されます。

自動ネゴシエーションと NIC

スイッチとサードパーティ製ネットワーク インターフェイス カード (NIC) 間で問題が発生する場合があります。デフォルトで、スイッチポートとインターフェイスは自動ネゴシエートします。一般的にはラップトップコンピュータやその他の装置も自動ネゴシエーションに設定されていますが、それでも自動ネゴシエーションの問題が発生することがあります。

自動ネゴシエーションの問題をトラブルシューティングする場合は、接続の両側で手動設定を試してください。手動設定を行っても問題が解決しない場合は、NICのファームウェアやソフトウェアに問題がある可能性があります。その場合は、NIC ドライバを最新バージョンにアップグレードして問題を解決してください。

ケーブル接続の距離

ポート統計情報に、過剰な FCS、レイトコリジョン、またはアライメントエラーが示されている場合は、スイッチから接続先の装置までのケーブル長が推奨ガイドラインに従っていることを確認してください。

スイッチのリセット



(注) スイッチをリセットするとスイッチが再起動します。

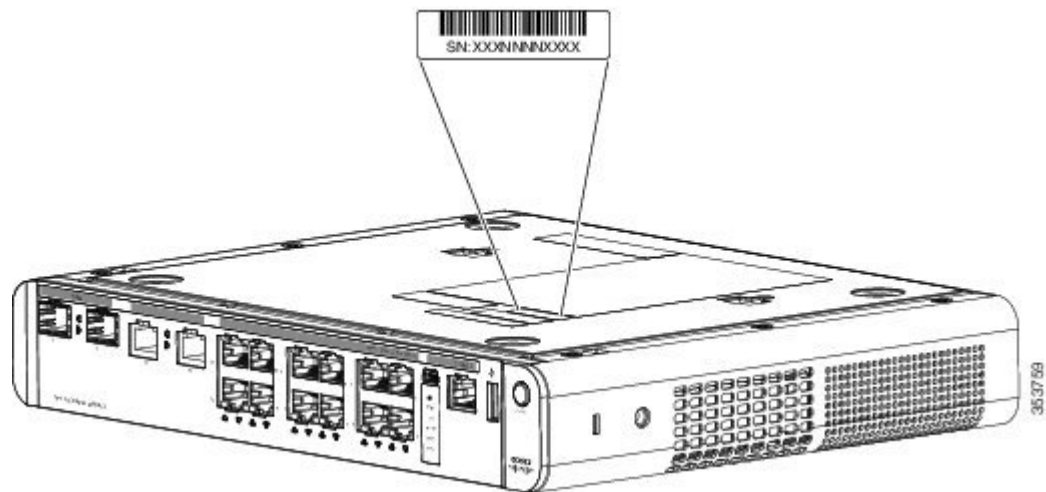
スイッチをリセットする方法

- ステップ 1** スイッチのプロンプトで **enable** と入力し、Return または Enter を押します。
- ステップ 2** 特権 EXEC プロンプト `switch#` で **setup** と入力し、Return または Enter を押します。初期設定ダイアログを実行するためのスイッチのプロンプトが表示されます。

スイッチのシリアル番号の確認

シスコのテクニカルサポートに連絡する場合は、スイッチのシリアル番号が必要です。**show version** 特権 EXEC コマンドを使用して、スイッチのシリアル番号を確認することもできます。

図 42: シリアル番号の場所





付録

A

技術仕様

この付録の内容は、次のとおりです。

- [環境仕様, 60 ページ](#)
- [物理仕様, 61 ページ](#)
- [電力要件, 62 ページ](#)
- [PoE 電力消費, 63 ページ](#)

環境仕様

環境条件	
動作温度	<p>Catalyst 3560CX-12PD-S および 3560CX-8XPD-S スイッチの場合は 40 °C、他のすべてのスイッチの場合は 45 °C</p> <p>(注) Catalyst 3560CX-8XPD-S を反転させて設置する場合、フルロード条件 (10G SFP+ トランシーバを設置し、最大 PoE を使用) 下での最大動作温度は 35 °C です。</p> <p>GLC-T SFP モジュールを搭載して Catalyst 3560-CX および 2960-CX スイッチを使用する場合の温度制限は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 海拔ゼロで許容される温度上限は、机上に設置した状態では 35 °C、反転させて設置した状態では 30 °C です。 • 高度 5000 フィート (1524 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 30 °C、反転させて設置した状態では 25 °C です。 • 高度 10000 フィート (3048 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 25 °C、反転させて設置した状態では 20 °C です。
	<p>GLC-T SFP モジュールを搭載して上記の製品を使用する場合の温度制限は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 海拔ゼロで許容される温度上限は、机上に設置した状態では 35 °C、反転させて設置した状態では 30 °C です。 • 高度 5000 フィート (1524 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 30 °C、反転させて設置した状態では 25 °C です。 • 高度 10000 フィート (3048 m) で許容される温度上限は、机上に設置した状態では 25 °C、反転させて設置した状態では 20 °C です。
保管温度	-22 ~ 158°F (-30 ~ 70°C) 最大 15,000 フィート (4573 m)
相対湿度	5 ~ 95% (結露しないこと)
動作時の高度	最大 10,000 フィート (3000 m)
保管時の高度	最大 15,000 フィート (4500 m)

物理仕様

重量	
Catalyst 3560CX-8PC-S	5.0 ポンド (2.27 kg)
Catalyst 3560CX-8TC-S	3.8 ポンド (1.72 kg)
Catalyst 2960CX-8PC-L	5.0 ポンド (2.27 kg)
Catalyst 2960CX-8TC-L	3.8 ポンド (1.72 kg)
Catalyst 3560CX-12PC-S	5.1 ポンド (2.31 kg)
Catalyst 3560CX-12TC-S	3.9 ポンド (1.77 kg)
Catalyst 3560CX-12PD-S	5.1 ポンド (2.31 kg)
Catalyst 3560CX-8PT-S	3.5 ポンド (1.58 kg)
Catalyst 3560CX-8XPD-S	6.0 ポンド (2.72 kg)

寸法 (高さ x 奥行 x 幅)	
Catalyst 3560CX-8PC-S	1.75 X 10.6 X 9.4 インチ (4.44 X 26.9 X 23.8 cm)
Catalyst 3560CX-8TC-S	1.75 X 10.6 X 8.4 インチ (4.44 X 26.9 X 21.3 cm)
Catalyst 2960CX-8PC-L	1.75 X 10.6 X 9.4 インチ (4.44 X 26.9 X 23.8 cm)
Catalyst 2960CX-8TC-L	1.75 X 10.6 X 8.4 インチ (4.44 X 26.9 X 21.3 cm)
Catalyst 3560CX-12PC-S	1.75 X 10.6 X 9.4 インチ (4.44 X 26.9 X 23.8 cm)
Catalyst 3560CX-12TC-S	1.75 X 10.6 X 8.4 インチ (4.44 X 26.9 X 21.3 cm)
Catalyst 3560CX-12PD-S	1.75 X 10.6 X 9.4 インチ (4.44 X 26.9 X 23.8 cm)
Catalyst 3560CX-8PT-S	1.75 X 10.6 X 7.0 インチ (4.44 X 26.9 X 17.7 cm)
Catalyst 3560CX-8XPD-S	1.75 X 10.6 X 10.4 インチ (4.44 X 26.9 X 26.4 cm)

電力要件

AC 入力電圧 - 100 ~ 240 VAC (オートレンジング)	
Catalyst 3560CX-8PC-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A
Catalyst 3560CX-8TC-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、0.5-0.2A
Catalyst 2960CX-8PC-L	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A
Catalyst 2960CX-8TC-L	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A
Catalyst 3560CX-12PC-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A
Catalyst 3560CX-12TC-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、0.5-0.2A
Catalyst 3560CX-12PD-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A
Catalyst 3560CX-8PT-S	18 ~ 60 VDC 50-60 Hz、6.0-1.6A
Catalyst 3560CX-8XPD-S	100 ~ 240 VAC 50-60 Hz、3.25-1.5A

電力消費	1 時間当たりの BTU
Catalyst 3560CX-8PC-S	1023.6
Catalyst 3560CX-8TC-S	170.6
Catalyst 2960CX-8PC-L	1023.6
Catalyst 2960CX-8TC-L	170.6
Catalyst 3560CX-12PC-S	1023.6
Catalyst 3560CX-12TC-S	170.6
Catalyst 3560CX-12PD-S	1057.7
Catalyst 3560CX-8PT-S	375.3
Catalyst 3560CX-8XPD-S	1057.7

定格電力	1 時間当たりの BTU
Catalyst 3560CX-8PC-S	0.3 KVA
Catalyst 3560CX-8TC-S	0.05 KVA
Catalyst 2960CX-8PC-L	0.3 KVA
Catalyst 2960CX-8TC-L	0.05 KVA
Catalyst 3560CX-12PC-S	0.3 KVA
Catalyst 3560CX-12TC-S	0.05 KVA
Catalyst 3560CX-12PD-S	0.31 KVA
Catalyst 3560CX-8PT-S	0.11 KVA
Catalyst 3560CX-8XPD-S	0.31 KVA

PoE 電力消費

スイッチ	PoE を使用しない場合の消費	PoE を使用する場合の消費	使用可能な PoE
Catalyst 3560CX-8PC-S	25.4 W	247.4 W	240 W
Catalyst 3560CX-8TC-S	19.7 W	該当なし	該当なし
Catalyst 3560CX-12PC-S	27.8W	253.0 W	240 W
Catalyst 3560CX-12TC-S	21.9 W	該当なし	該当なし
Catalyst 3560CX-12PD-S	32.6W	254.7 W	240 W
Catalyst 2960CX-8PC-L	24.5 W	135.5 W	1 24 W
Catalyst 2960CX-8TC-L	20.0 W	該当なし	該当なし
Catalyst 3560CX-8PT-S	TBD	TBD	最大 146 W
Catalyst 3560CX-8XPD-S	TBD	TBD	240 W



付録

B

コネクタおよびケーブルの仕様

この付録の内容は、次のとおりです。

- [コネクタの仕様, 65 ページ](#)
- [ケーブルおよびアダプタ, 67 ページ](#)

コネクタの仕様

10/100/1000 ポート (PoE を含む)

すべての 10/100/1000 ポートは、標準の RJ-45 コネクタとイーサネット ピン割り当てを使用します。

図 43: 10/100/1000 ポートのピン割り当て

Pin	Label	1 2 3 4 5 6 7 8
1	TP0+	
2	TP0-	
3	TP1+	
4	TP2+	
5	TP2-	
6	TP1-	
7	TP3+	
8	TP3-	

SFP モジュールのコネクタ

図 44: デュプレックス LC ケーブル コネクタ



図 45: シンプレックス LC ケーブル コネクタ

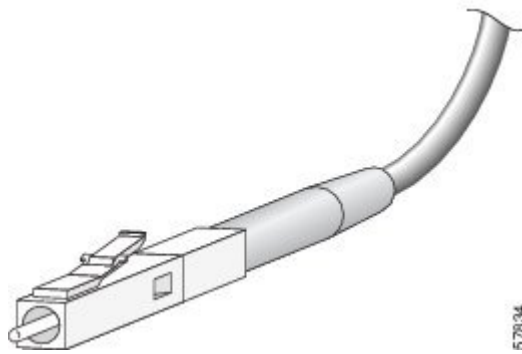


図 46: 銅線 SFP モジュールの LC コネクタ

Pin	Label	1 2 3 4 5 6 7 8
1	TP0+	
2	TP0-	
3	TP1+	
4	TP2+	
5	TP2-	
6	TP1-	
7	TP3+	
8	TP3-	

ケーブルおよびアダプタ

SFP モジュール ケーブル

ケーブルの仕様については、次のインストレーション ノートを参照してください。

- [『Cisco SFP and SFP+ Transceiver Module Installation Notes』](#)
- [『Cisco 40-Gigabit QSFP+ Transceiver Modules Installation Note』](#)

各ポートはケーブルの反対側の波長仕様と一致させる必要があります。また、ケーブルは規定のケーブル長を超えないものとします。銅線 1000BASE-T SFP モジュール トランシーバは、カテゴリ 5 の標準 4 ツイストペア ケーブルを使用します。最大ケーブル長は 328 フィート (100 m) です。

ケーブルのピン割り当て

図 47: 4 ツイストペアストレートケーブルの配線

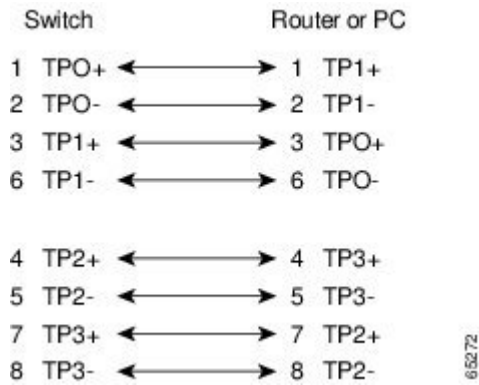


図 48: 4 対のツイストペアセミクロスケーブルの配線

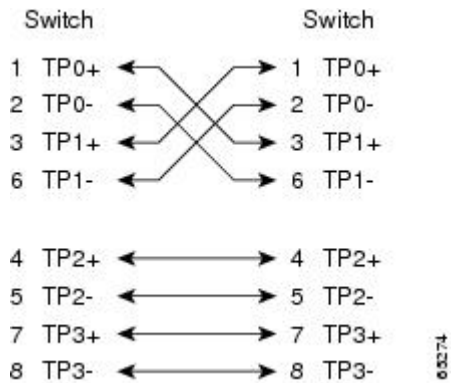


図 49: 2 対のツイストペアストレートケーブルの構造

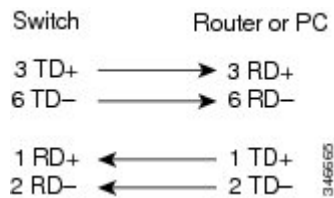
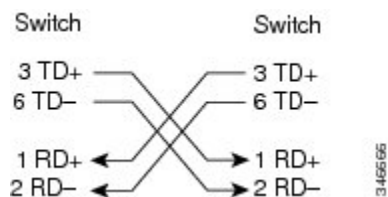


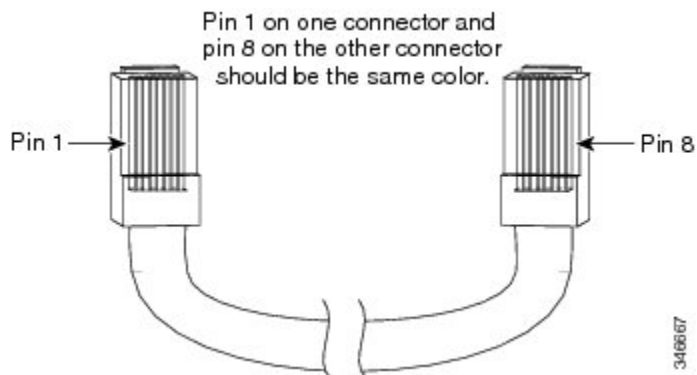
図 50: 2 対のツイストペアクロスケーブルの構造



クロス ケーブルの識別

ケーブル両端のモジュラプラグを比較すると、クロスケーブルかどうかを識別できます。タブを裏側にして、ケーブルの両端を並べます。クロスケーブルは、左側プラグの外側のピンに接続されたワイヤと、右側プラグの内側のピンに接続されたワイヤが別の色になっています。

図 51: クロス ケーブルの識別



コンソールポートアダプタのピン割り当て

RS-232 コンソールポートでは 8 ピン RJ-45 コネクタを使用します。RJ-45/DB-9 アダプタケーブルを使用して、スイッチのコンソールポートとコンソールPCを接続します。スイッチのコンソールポートを端末に接続する場合は、RJ-45/DB-25 メス DTE アダプタが必要です。このキット（部品番号 ACS-DSBUASYN=）をご注文ください。

表 3: DB-9 アダプタを使用したコンソールポート信号

スイッチ コンソールポート (DTE)	RJ-45 to DB-9 ターミナルアダプタ	コンソール装置
信号	DB-9 ピン	信号
RTS	8	CTS
DTR	6	DSR
TxD	2	RxD
GND	5	GND

スイッチ コンソールポート (DTE)	RJ-45 to DB-9 ターミナルアダプタ	コンソール装置
信号	DB-9 ピン	信号
GND	5	GND
RxD	3	TxD
DSR	4	DTR
CTS	7	RTS

表 4: DB-25 アダプタを使用したコンソールポート信号

スイッチコンソールポート (DTE)	RJ-45 to DB-25 ターミナルアダプタ	コンソール装置
信号	DB-25 ピン	信号
RTS	5	CTS
DTR	6	DSR
TxD	3	RxD
GND	7	GND
GND	7	GND
RxD	2	TxD
DSR	20	DTR
CTS	4	RTS



付録

C

CLI ベースのセットアッププログラムによるスイッチの設定

この付録の内容は、次のとおりです。

- [Express Setup 経由での CLI のアクセス, 71 ページ](#)
- [コンソールポート経由での CLI のアクセス, 72 ページ](#)
- [初期設定情報の入力, 81 ページ](#)

Express Setup 経由での CLI のアクセス

未設定スイッチ上の CLI にアクセスすることができます。スイッチを Express Setup モードで設定し、スイッチのイーサネットポートを PC またはワークステーションのイーサネットポートに接続します。スイッチのクイックスタートガイドに記載されている手順に従ってスイッチの電源を投入し、Express Setup を使用できるようにします。

スイッチが Express Setup モードの状態、IP アドレス 10.0.0.1 を入力して Telnet セッションを開始します。次に、**setup** ユーザ EXEC コマンドを入力し、[IP 設定, \(81 ページ\)](#) および[セットアッププログラムの完了, \(81 ページ\)](#) に記載されている情報を入力します。

スイッチの設定情報を入力した後、**write memory** 特権 EXEC コマンドを使用して、フラッシュメモリに設定を保存します。



(注) Express Setup モードでは、**write memory** コマンドを入力するまで、スイッチ上で IP アドレス 10.0.0.1 が有効です。**write memory** コマンドを入力すると、Telnet 接続が切断されます。

コンソールポート経由での CLI のアクセス

スイッチの RJ-45 コンソールポートまたは USB コンソールポートを PC またはワークステーションに接続し、端末エミュレーションソフトウェアを通じてスイッチにアクセスすることにより、設定済みスイッチ、または未設定のスイッチ上で CLI にアクセスできます。



(注) スイッチをスタックしている場合は、スタック内の 1 つのスイッチのコンソールポートに接続します。任意のメンバスイッチから、スタック全体の初期設定を行うことができます。

RJ-45 コンソールポートの接続

手順の概要

1. RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアルポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのコンソールポートに接続します。
2. PC または端末上で端末エミュレーションソフトウェアを起動します。このプログラム（その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション）は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。
3. コンソールポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを次のように設定します。
4. スイッチのクイック スタート ガイドを参照して、スイッチの電源を入れます。
5. PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアッププロンプトを表示します。[初期設定情報の入力](#)、(81 ページ) の手順を実行します。

手順の詳細

-
- ステップ 1** RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアルポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのコンソールポートに接続します。
- ステップ 2** PC または端末上で端末エミュレーションソフトウェアを起動します。このプログラム（その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション）は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。
- ステップ 3** コンソールポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを次のように設定します。
- 9600 ボー
 - 8 データ ビット
 - 1 ストップ ビット

- パリティなし
- なし（フロー制御）

ステップ 4 スイッチのクイック スタート ガイドを参照して、スイッチの電源を入れます。

ステップ 5 PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。初期設定情報の入力、(81 ページ) の手順を実行します。

USB コンソール ポートの接続

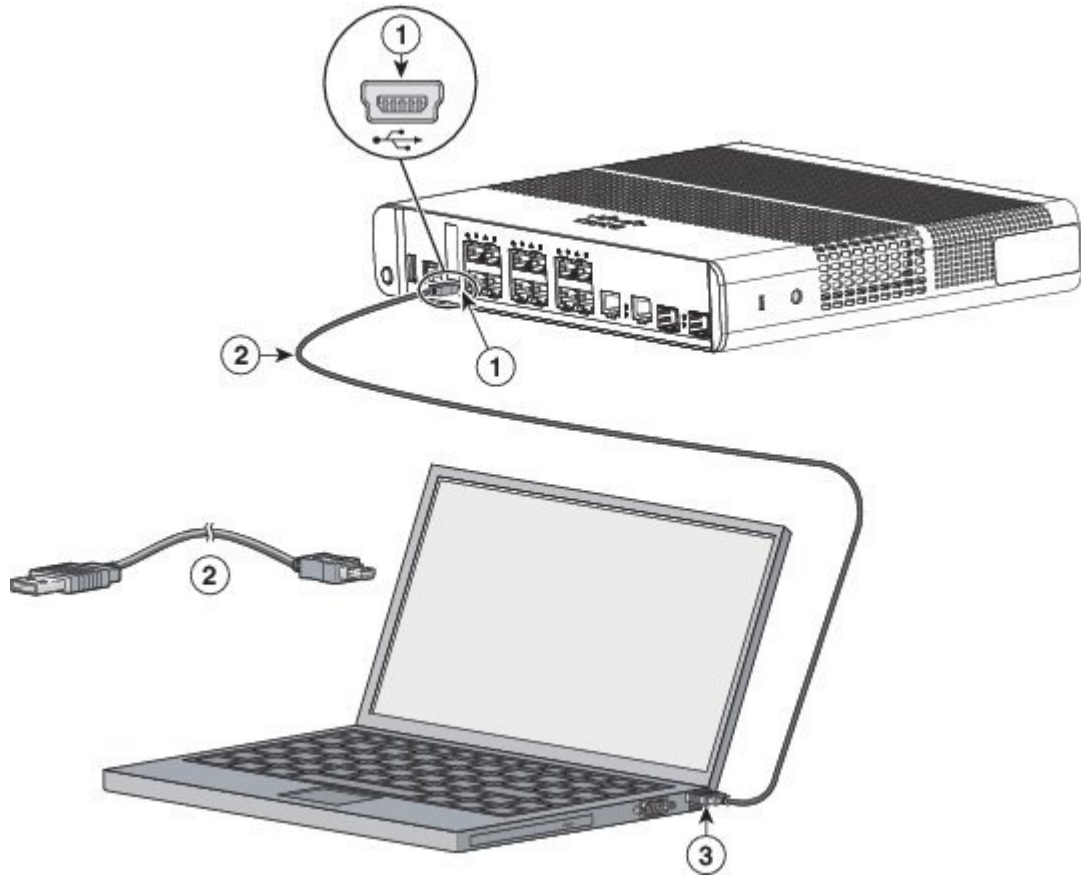
手順の概要

1. スイッチの USB コンソール ポートを Windows ベースの PC に最初に接続するときは、USB ドライバをインストールします。Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール、(75 ページ) を参照してください。
2. USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのミニ B (5 ピン コネクタ) USB コンソール ポートに接続します。
3. PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。このプログラム（その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション）は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。
4. コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタ フォーマットを次のように設定します。
5. スイッチのクイック スタート ガイドを参照して、スイッチの電源を入れます。
6. PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。セットアップ プログラムの手順に従います。

手順の詳細

ステップ 1 スイッチの USB コンソールポートを Windows ベースの PC に最初に接続するときは、USB ドライバをインストールします。[Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール](#)、(75 ページ) を参照してください。

図 52: スイッチへの USB コンソールケーブルの接続



363771

1	USB コンソールポート (5 ピンミニタイプ B)	3	ラップトップコンピュータ上の USB タイプ A 接続
2	USB タイプ A から 5 ピンミニタイプ B へのケーブル		

- ステップ 2** USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのミニ B (5 ピン コネクタ) USB コンソール ポートに接続します。
- ステップ 3** PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。このプログラム (その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション) は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。
- ステップ 4** コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタ フォーマットを次のように設定します。
- 9600 ボー
 - 8 データ ビット
 - 1 ストップ ビット
 - パリティなし
 - なし (フロー制御)
- ステップ 5** スwitchのクイック スタート ガイドを参照して、スイッチの電源を入れます。
- ステップ 6** PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。セットアップ プログラムの手順に従います。
-

Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール

Microsoft Windows ベースの PC をスイッチの USB コンソール ポートに最初に接続するときに、USB デバイス ドライバをインストールする必要があります。

- [Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール](#)
- [Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール](#)
- [Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのインストール](#)

Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール

手順の概要

1. Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバ ファイル を入手し、解凍します。
2. 32 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_32 フォルダ内の setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_64 フォルダ内の setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
3. Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。
4. [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
5. [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
6. USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、FoundNewHardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

手順の詳細

ステップ 1 Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバ ファイル を入手し、解凍します。

(注) スイッチ ソフトウェアのダウンロード用の Cisco.com サイトから、ドライバ ファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 32 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_32 フォルダ内の setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_64 フォルダ内の setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。

ステップ 3 Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。

ステップ 4 [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

ステップ 6 USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、FoundNewHardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール

手順の概要

1. Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバファイル入手し、解凍します。
2. setup.exe ファイルをダブルクリックします。
3. Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。
4. [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
5. [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
6. USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

手順の詳細

-
- ステップ 1** Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバファイル入手し、解凍します。
- (注) スイッチ ソフトウェアのダウンロード用の Cisco.com サイトから、ドライバファイルをダウンロードできます。
- ステップ 2** setup.exe ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
- ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。
-

Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのインストール

手順の概要

1. Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバ ファイル を入手し、解凍します。
2. 32 ビット Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows_32 フォルダの setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows_64 フォルダの setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
3. Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。
4. [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
5. [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
6. USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、FoundNewHardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

手順の詳細

-
- ステップ 1** Cisco.com の Web サイトから Cisco USB コンソール ドライバ ファイル を入手し、解凍します。
- (注) スイッチ ソフトウェアのダウンロード用の Cisco.com サイトから、ドライバ ファイルをダウンロードできます。
- ステップ 2** 32 ビット Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows_32 フォルダの setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows Vista または Windows 7 を使用している場合は、Windows_64 フォルダの setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
- (注) User Account Control 警告が表示された場合は、[Allow - I trust this program] をクリックして先に進みます。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
- ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、FoundNewHardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。
-

Cisco Microsoft Windows USB ドライバのアンインストール

Cisco Microsoft Windows XP および 2000 USB ドライバのアンインストール

Windows の Add or Remove Programs ユーティリティ、または setup.exe ファイルを使用します。

Setup.exe プログラムの使用

はじめる前に

ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

手順の概要

1. 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
2. Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
3. [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプションボタンを選択します。[Next] をクリックします。
4. [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
5. [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されたら、[Finish] をクリックします。

手順の詳細

-
- ステップ 1** 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2** Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプションボタンを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されたら、[Finish] をクリックします。
-

Add or Remove Programs ユーティリティの使用

はじめる前に

ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

手順の概要

1. [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] の順にクリックします。
2. [Cisco Virtual Com] までスクロールして [Remove] をクリックします。
3. [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプションボタンを選択します。[Next] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1** [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] の順にクリックします。
- ステップ 2** [Cisco Virtual Com] までスクロールして [Remove] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。
-

Cisco Microsoft Windows Vista および Windows 7 USB ドライバのアンインストール

はじめる前に

ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

手順の概要

1. 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
2. Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
3. [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。
4. [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
5. [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されたら、[Finish] をクリックします。

手順の詳細

- ステップ 1** 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2** Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されたら、[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
- (注) User Account Control 警告が表示された場合は、[Allow - I trust this program] をクリックして先に進みます。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されたら、[Finish] をクリックします。
-

初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアッププログラムを完了する必要があります。セットアッププログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカルルータやインターネットと通信するのに必要な IP アドレスやその他の設定情報を割り当てる必要があります。これらの情報は、スイッチの設定や管理にデバイスマネージャまたは Cisco Network Assistant を使用する場合にも必要です。

IP 設定

セットアッププログラムを起動する前に、ネットワーク管理者から次の情報を入手しておきます。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

セットアッププログラムの完了

スイッチをスタックしていて、スタック内の各スイッチに複数のコンソールが接続してある場合は、最初に Enter を押したコンソールに初期設定ダイアログが表示されます。

手順の概要

1. 最初の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。
2. スイッチのホスト名を入力し、**Return** を押します。
3. イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。
4. イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。
5. 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。
6. 国コードを設定する場合は、**yes** を入力し、**Return** キーを押します。
7. 国コードを入力し、**Return** キーを押します。
8. (任意) プロンプトに従って、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を設定します。後から、CLI、Device Manager、または Network Assistant アプリケーションを使用して SNMP を設定することもできます。SNMP を後で設定する場合は、**no** を入力します。
9. 管理ネットワークに接続するインターフェイスの名前 (物理インターフェイスまたは VLAN 名) を入力して、**Return** を押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。
10. インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** を押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。
11. **Y** を入力して、スイッチをクラスタ コマンド スイッチとして設定します。**N** を入力すると、メンバスイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。
12. 表示される選択肢のいずれかを選択して、**Return** を押します。

手順の詳細

ステップ 1 最初の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity
for management of the system, extended setup will ask you
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

ステップ 2 スイッチのホスト名を入力し、**Return** を押します。

ホスト名の文字数は、コマンドスイッチでは 28 文字、メンバスイッチでは 31 文字に制限されています。どのスイッチでも、ホスト名の最終文字として **-n** (**n** は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

- ステップ 3** イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。
このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。シークレットパスワードは暗号化され、イネーブルパスワードはプレーンテキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

- ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

- ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。

このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

- ステップ 6** 国コードを設定する場合は、**yes** を入力し、**Return** キーを押します。

```
Do you want to configure country code? [no]: yes
```

- ステップ 7** 国コードを入力し、**Return** キーを押します。

```
Enter the country code[US]: US
```

- ステップ 8** (任意) プロンプトに従って、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を設定します。後から、CLI、Device Manager、または Network Assistant アプリケーションを使用して SNMP を設定することもできます。SNMP を後で設定する場合は、**no** を入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

- ステップ 9** 管理ネットワークに接続するインターフェイスの名前 (物理インターフェイスまたは VLAN 名) を入力して、**Return** を押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。

```
Enter interface name used to connect to the  
management network from the above interface summary: vlan1
```

- ステップ 10** インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** を押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。

```
Configuring interface vlan1:  
Configure IP on this interface? [yes]: yes  
IP address for this interface: 10.4.120.106  
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

ステップ 11 Yを入力して、スイッチをクラスタコマンドスイッチとして設定します。Nを入力すると、メンバスイッチまたはスタンドアロンスイッチとして設定されます。

Nを入力した場合は、Network Assistant GUI に候補スイッチとして表示されます。後から、CLI、Device Manager、または Network Assistant アプリケーションを使用して、スイッチをコマンドスイッチとして設定することもできます。後で設定する場合は、**no** と入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

以上でスイッチの初期設定が完了しました。以下に、設定の出力例を示します。

The following configuration command script was created:

```
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBPd9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
!
interface GigabitEthernet1/0/1
!
interface GigabitEthernet1/0/2

interface GigabitEthernet1/0/3
!
...<output abbreviated>
!

interface GigabitEthernet1/0/23
!
end
```

ステップ 12 表示される選択肢のいずれかを選択して、Return を押します。

```
[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.
```

```
[1] Return back to the setup without saving this config.
```

```
[2] Save this configuration to nvram and exit.
```

Choose (2) to save the configuration to NVRAM to use it the next time the switch reboots.

```
Enter your selection [2]: 2
```

これで、スイッチはこのデフォルト設定を実行します。この設定を変更するか、他の管理作業を実行する場合は、[管理オプション](#)、[\(14 ページ\)](#) を参照してください。

■ セットアッププログラムの完了